

9. 資 料

~~~~~  
センターニュース より  
~~~~~

1.	TSSジョブの制限値について	(No. 92) ……	128
2.	バッチジョブの処理について	(No. 92) ……	128
3.	ジョブの状態表示について	(No. 92) ……	128
4.	バッチジョブのキャンセルについて	(No. 92) ……	129
5.	統計処理パッケージ"ANALYST" の機能追加について	(No. 93) ……	129
6.	英文清書システム"ATF"文字の ディスプレイ表示について	(No. 94) ……	133
7.	データセットの磁気テープへの退避について	(No. 95) ……	134
8.	英文清書システム(富士通ATF)について	(No. 99) ……	135
9.	会話型によるグラフ作成ソフトウェア "EGRET-1"について	(No. 99) ……	140
10.	学術情報センターの情報検索について	(No. 101) ……	144
11.	エラーメッセージの日本語表示コマンドについて	(No. 102) ……	146
12.	Prologの運用開始について	(No. 102) ……	147
13.	C言語の運用開始について	(No. 103) ……	148
14.	UTILISPの運用開始について	(No. 103) ……	149
15.	PFDのレベルアップについて	(No. 103) ……	150
16.	TSSセッションのキャンセルについて	(No. 103) ……	151
17.	ハイレベル手順(HDLC)による 交換TSSサービスについて	(No. 104) ……	152
18.	C言語プログラムと他言語プログラムとの結合について	(No. 104) ……	152
19.	会話型図形処理システム"GRAPHMAN"について	(No. 104) ……	154
20.	カタログドプロシジャFORT 77のパラメータについて	(No. 104) ……	159
21.	バッチジョブ処理結果のラインプリンタ出力について	(No. 105) ……	160
22.	オフィスプリンタ(OPR)装置の使用について	(No. 105) ……	160
23.	大型計算機センター(ネットワーク利用) におけるフルスクリーン編集について	(No. 106) ……	165

1. TSSジョブの制限値について

1月より、TSSジョブの制限値を次の通り拡張します。

記

1セッション時間	2時間
CPUタイム	5分（作業領域640KB未満の時） 20分（作業領域640KB以上の時）

2. バッチジョブの処理について

ジョブの実行は、多重処理で行われる関係上、必ずしも依頼された順番に処理されるとは限りません。その場合、同一データセットの更新に関わるジョブ等で問題が生じます。依頼される時は、次のことに心がけてください。

・ジョブ名を同一とする。

即ち、ジョブ文 //PnnnnA JOB CLASS=A の中の下線部を同一とする。

・前のジョブの起動を確かめてから、次のジョブを依頼する。

・1つのジョブで複数ステップの処理を依頼する。

バッチジョブが処理される場合には、ジョブ依頼がなされた時点ではなく、ジョブが実行される時点におけるデータセットがアクセスされますので、自分のバッチジョブの処理状況とTSS処理におけるデータセットの使用に十分注意してください。

自分のジョブの実行状態や、ジョブの待ち状態を知りたい場合には、「STATUSコマンド」を入力してください。

3. ジョブの状態表示について

ジョブの実行状態や、ジョブの待ち状態およびTSSの使用端末数を表示するコマンドに「STATEコマンド、@STコマンド」があります。御利用下さい。

使用例1.（ジョブの実行状態、TSS使用端末数）

READY

STATE

JDE136I TIME=15.58.59 DATE=87.01.06

① JDE327I USERS=0013

JDE102I 15.59.00 ACTIVE DISPLAY

②*** PROCESSING ANS (A--06'TH 11:08 B--06'TH 15:56 C--06'TH 12:10) ***

①TSSの使用端末が13台である。

②クラス別ジョブの終了した日と、時刻を表わす。

Aジョブ……6日11時08分 Bジョブ……6日15時56分
Cジョブ……6日12時10分

使用例2 (ジョブの待ち状態)

READY
@ST
WAITING 2 JOBS ON B CLASS CN(11)
WAITING 1 JOBS ON F CLASS CN(11)

Bクラスに2件、Fクラスに1件の実行待ちジョブがあり、その他のクラスには実行待ちジョブが無い。

4. バッチジョブのキャンセルについて

依頼したバッチジョブをキャンセルしたい場合は、「CANCELコマンド」を入力してください。

例 ジョブ名FxxxxA (Jnnnn) のジョブをキャンセルする。

READY

STatus

KEQ56197I JOB FxxxxA(JOBnnnnn) IS WAITING FOR EXECUTION……実行待ちジョブ
KEQ56211I JOB FxxxxB(JOBmmmm) IS EXECUTING………実行中ジョブ
KEQ56192I JOB Fxxx#(JOBjjjjj) IS EXECUTING………TSSジョブ

READY

CANCEL FxxxxA, P

同一のジョブ名がある場合

READY

CANCEL FxxxxA(JOBnnnnn), P

5. 統計処理パッケージANALYSTの機能追加について

統計処理パッケージANALYSTの機能がレベルアップし、フルスクリーン端末でのメニュー形式による処理が可能となりました。従来、煩わしかったコマンドの指定法を覚えることなしに、容易に統計処理を行うことができ、日本語端末では日本語メッセージ表示が可能です。基本的な処理手順は、希望の統計処理画面まで番号を指定して進め、一覧表として表示される変数名を指定し、EXBCキー(PF6)を押します。以下に、使用例を示します。

<使用例 (日本語端末) >

データバンクよりデータ名LEISUREを取り出し、変数名AGE, HEIGHT, WEIGENTの基本統計を行う。

READY
ANALYST
ANALYST— MENU

-----< 統計解析 >-----
===>

- 1 データ入力
- 2 基本統計・集計
- 3 多変量解析
- 4 数量化理論分析
- 5 変数間の関連分析
- 6 検定
- C コマンド実行
- S 補助
- X 終了

" 1 " を指定する。

-----< データバンクからのデータ入力 >-----
入力するデータを S で選択して下さい
データ (LEISURE) が入力されました。

BLOOD	WERNER - BLOOD CHEMISTRIES
BLOODJ	WERNER - BLOOD CHEMISTRIES
COFFEE	
KENDB	
S LEISURE	SURVEY DATA ON INDIVIDUAL TASTES
LEISUREJ	SURVEY DATA ON INDIVIDUAL TASTES
SASAKI	
WADA	

LEISUREに " S " を指定し、ENTERキーを押すとデータバンクからデータが入力される。
(GET LEISUREと同じ)

↓

PF3キーを押し、初期画面にもどり、"2"（基本統計・集計）を指定する。
次のメニュー画面が表示される。

- ```
-----< 基本統計・集計 >-----
===>

 1 基本統計量の計算
 2 散布図の作成
 3 2次元プロット図の作成
 4 クロス表の作成
 5 クロス統計表の作成
 6 基本集計表の作成
 7 テーブル集計表の作成
 8 層別統計量の産出
 9 内訳図の作成
 10 ヒストグラムの作成
```

"1"を指定する

- ```
↓
-----< 基本統計量の計算 >-----
===>

  1 変数の指定
  2 パラメタの指定
  3 ケースの選択条件の指定
  4 結果の出力先などの指定
  5 データの入力
```

以下の画面でPFキー、ENTERキーの意味は次のとおりです

```
NEXTキー (PF2)  次の画面に推移
ENDキー (PF3)   前の画面に復帰
RETURNキー (PF4) 本画面に復帰
EXECキー (PF6)   指定内容の実行
UPキー (PF7)     変数選択画面で上方向のスクロール
DOWNキー (PF8)   変数選択画面で下方向のスクロール
ENTERキー       指定内容のチェック
```

"1"を指定する

```
-----< 散布図の作成の変数指定 >-----
横軸変数にS、縦軸変数にKを指定して下さい
```

変数名	変数ラベル
S	AGE
S	HEIGHT
S	WEIGHT
	MARRIED
	SMOKING
	PRTSMKNG
	COFFEE
	AGE
	HEIGHT (CM)
	WEIGHT (KG)
	MARRIED OR SINGLE
	NUMBER OF CIGARETTES SMOKED IN ONE DAY
	EITHER OF PARENTS SMOKED
	QUANTITY

続く

変数名を " S " を指定する

↓

実行キー (PF 6) を押下する

↓

	AGE	HEIGHT (CM)	WEIGHT (KG)
総ケース	126	126	126
有効ケース	126	126	126
和	3249.00	21364.00	7567.00
平均	25.79	169.56	60.06
最小値	19.00	150.00	46.00
最大値	35.00	182.00	80.00
値幅	16.00	32.00	34.00
標準偏差	3.30	5.51	6.87
分散	10.92	30.31	47.16
標準誤差	0.29	0.49	0.61

終了はENDキー (PF 3) を押すと1画面ずつ前へもどる。

詳細はANALYSTマニュアルを参照してください。

6. 英文清書システム " ATF " 文字のディスプレイ表示について

富士通英文清書システム " ATF " の機能がレベルアップし、イメージディスプレイ装置に、ATF清書文字の表示が可能になりました。イメージディスプレイ装置 (センター1階日本語端末室、2階特殊端末室に各1台設置) を利用して、最初に、" ATF コマンド " を入力し、次に、" IDP コマンド " を入力すると次ページに示すメニュー画面が表示されます。" IDP " コマンドでは、数式、表、グラフを含む英文書をディスプレイに表示するばかりでなく、OPR (オフィスプリンタ) 装置への出力も可能です。御利用ください。

以下に、使用方法を示します。

(例: テキスト名をATFN. TEXTとし、以下内容を示す。)

```
00001 @PL 30
00002 @LL 70
00003 @IN 0-4
00004 @DS ON
00005 ----A T F----@BR
00006 @NP(H"+$+OH"-H_2&O), and
00007 @NP(a EQUAL b PLUS c),
00008 @NP(A IMPROPER-SUPERSET B),
```

```

READY
ATF
READY
IDP FROM(ATFN.TEXT)
      : (メニュー方式で処理選択を行う。)

```

```

-----< IDP OPERATION MENU >-----
OPTION ==> S

S - DISPLAY SPECIFIED PAGE
B - DISPLAY BACK PAGE
N - DISPLAY NEXT PAGE
P - PRINT OUT SPECIFIED PAGE
X - TERMINATE IDP

DISPLAY OR PRINT OUT PAGE NUMBER ==> 1 ( IF 'S' OR 'P' ASSUMED )

DISPLAY MODE ==>

M - MAGNIFY
  - REDUCE

-----
PRESS PF3 TO TERMINATE IDP

```

画面表示の場合 "OPTION==>" の個所に "S" を指定し、OPR装置へ印刷する場合は "P" を指定する。"P" を指定した場合や、"S" を指定した後の表示が終了すると次のメニューが表示され、OPR装置へ印刷する場合は、以下のように指定する。

```

-----< IDP TERMINATION MENU >-----
OPTION ==> B

B - PRINT ON OPR (BACKGROUND)
F - PRINT ON OPR (FOREGROUND)
BLANK - NOPRINT

PRINT PAGE NUMBER:
FROM ==> 1 ( FIRST PAGE, 0 ASSUMED )
TO ==> 1 ( LAST PAGE, 0 ASSUMED )

NUMBER OF COPIES ==>

PRINTER ID. ==> 1608

```

(ATFN.TEXTのOPR装置への出力例)

----A T F----



7. データセットの磁気テープへの退避について

直接アクセス装置上（ディスク上）にデータセットが存在し、年度更新をしない課題については、3月末日にディスク上のデータセットは消去されますので、各利用者の方で磁気テープ、又はフロッピーディスクに退避される様をお願いします。

[磁気テープへ退避するジョブ制御文]

- ・順データセットを退避する。

```
// EXEC PSCOPY
//SYSUT1 DDSN=F1234.PS.FORT77,DISP=SHR
//SYSUT2 DD DSN=データセット名,DISP=(NEW,KEEP),
//          LABEL=(1,SL),VOL=SER=ボリューム通し番号,
//          UNIT=OPENMT,
//          DCB=(LRECL=80,RECFM=FB,BLKSIZE=3120)
/*
```

- ・区分データセットを退避する。

```
// EXEC COPY
//IN DD DSN=F1234.PO.FORT77,DISP=SHR
//OUT DD DSN=データセット名,DISP=(NEW,KEEP),
//        LABEL=(1,SL),VOL=SER=ボリューム通し番号,
//        UNIT=OPENMT,
//        DCB=(LRECL=80,RECFM=FB,BLKSIZE=3120)

//SYSIN DD *
COPY OUTDD=OUT,INDD=IN
/*
```

8. 英文清書システム (富士通A T F) について

英文清書システム (Advanced Text Formatter for science) は、T S S処理で英論文の作成清書を行うシステムです。文章ばかりでなく、表・グラフ・数式・図版なども作成することができます。

清書出力の例

where g is the amplifier gain and \bar{r}_i the amplifier noise. After one kick at all the particles, z_{rms}^2 changes by

$$\Delta z_{rms}^2 = \frac{1}{N} \sum_{i,j} [z_{i,j} - g(\bar{z}_i + \bar{r}_i)]^2 - \frac{1}{N} \sum_{i,j} z_{i,j}^2 \quad (8)$$

$$= \frac{1}{N} \sum_{i,j} [g^2(\bar{z}_i^2 + \bar{r}_i^2) - 2g \bar{z}_i z_{i,j}] \quad (9)$$

$$= \frac{1}{N} [-2g + g^2(1 + \eta)] z_{rms}^2, \quad (10)$$

where η is defined by

$$\eta = \frac{r_{rms}^2}{z_{rms}^2} \quad (11)$$

これらのテキストの作成は、T S S処理のEDITコマンド (内容識別修飾子: TEXT) で行い、文章と文章に対する種々な命令 (強制改行等) や、清書する場合のレイアウトに対する命令をテキストとして作成します。

READY

ATF

READY

EDIT ATFN TEXT

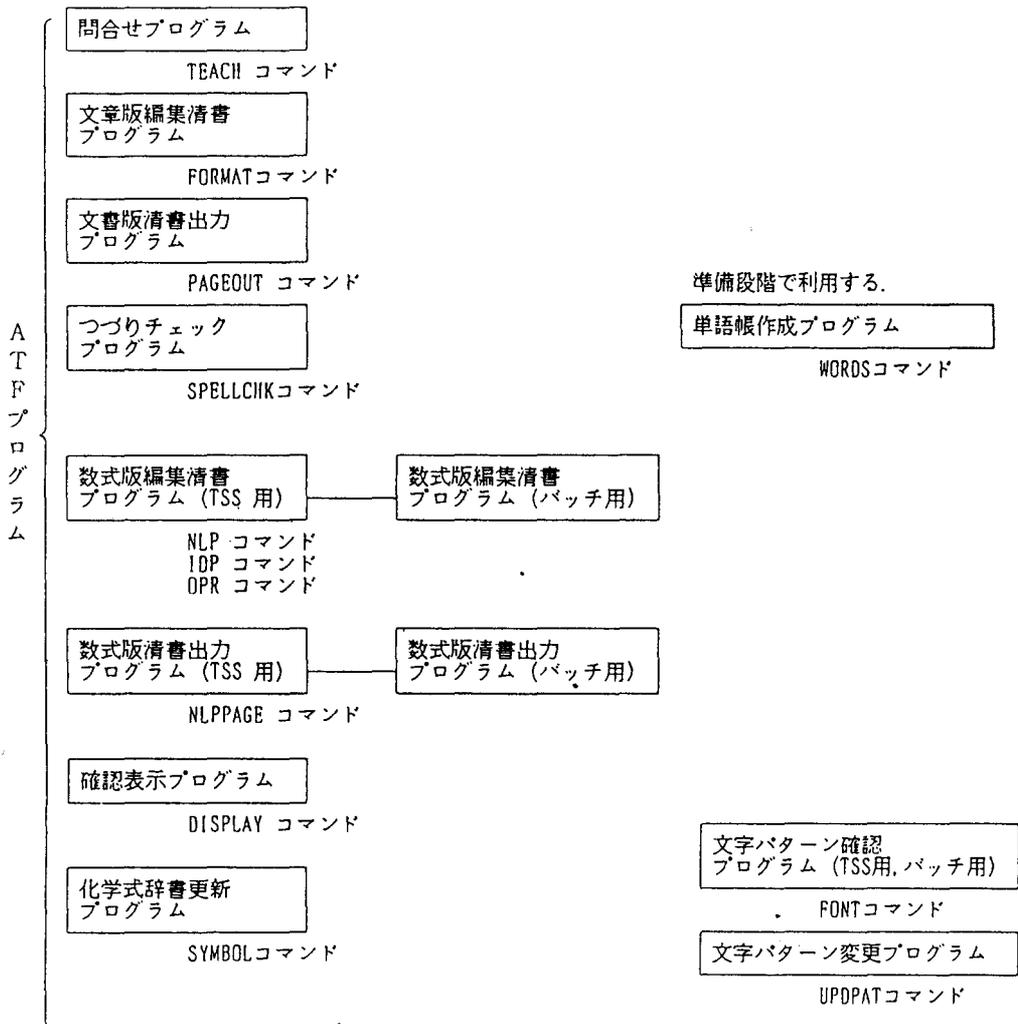
```
where @it(g) is the amplifier gain and @np( r bar _i$ ) the amplifier
noise.# After one kick at all the particles, @np( z_rms$" 2$ ) changes
by @br
@np /(8)/1/15
@grDz_rms$" 2$ = over( 1;N ) sigma :i,j:: ::: bracket-open z_i,j$ -
  g(z_bar _i$ + r_bar _i$) bracket-close "2$
  - over( 1;N) sigma :i,j:: ::: z_i,j$" 2$
@np off
@np /(9)/1/20
= over( 1;n ) sigma :i,j:: ::: bracket-open g"2$(z_bar _i$" 2$
  + r_bar _i$" 2$) - 2g z_bar _i$z_ I,J$ bracket-close
@np off
@np /(10)/1/20
= over( 1;n ) bracket-open -2g + g"2$( 1+@grh) bracket-close
  z_rms$" 2$ ,
@np off
@in 0-0
where @grh is defined by @br
@np /(11)/1/30
@grh = ov
```

< ATF命令について >

@PL.	ページの行数
@LL.	ページの桁数
@IN.	桁下げの桁数
@DS ON. . .	清書出力を1行起きに出力
@BR.	強制改行
@IT.	イタリック体文字
@GR.	ギリシャ文字
@NP.	数式パラグラフの指定
OVER.	分数
SIGMA. . . .	和

その他、ATF命令については、参考マニュアルを参照してください。

テキストを作成した後は、次に示すATFプログラムにより、ディスプレイ装置への清書形式での表示や、プリンター用紙への出力を行うことができます。



(1) 清書形式でのディスプレイ画面への表示

イメージディスプレイ装置 (センター1階日本語端末室、2階特殊端末室に設置) を利用して、最初に "ATFコマンド" を入力した後、"IDPコマンド" を入力すると、次に示すメニュー画面が表示されます。そして、処理項目 (OPTION) を選択することにより、イメージディスプレイ画面へ清書形式で表示されます。

READY
ATF
READY
IDP FROM(ATFN.TEXT)
: (メニュー方式で処理選択を行う。)

```
-----< IDP OPERATION MENU >-----  
OPTION ==> S  
  
S - DISPLAY SPECIFIED PAGE  
B - DISPLAY BACK PAGE  
N - DISPLAY NEXT PAGE  
P - PRINT OUT SPECIFIED PAGE  
X - TERMINATE IDP  
  
DISPLAY OR PRINT OUT PAGE NUMBER ==> 1 ( IF 'S' OR 'P' ASSUMED )  
  
DISPLAY MODE ==>  
  
M - MAGNIFY  
- REDUCE  
  
-----  
PRESS PF3 TO TERMINATE IDP
```

画面表示の場合 " OPTION==>" の個所に " S " を指定し、OPR 装置へ印刷する場合は " P " を指定する。" P " を指定した場合や、" S " を指定した後の表示が終了すると次のメニューが表示され、OPR 装置へ印刷する場合は、以下のように指定する。

```
-----< IDP TERMINATION MENU >-----  
OPTION ==> B  
  
B - PRINT ON OPR (BACKGROUND)  
F - PRINT ON OPR (FOREGROUND)  
BLANK - NOPRINT  
  
PRINT PAGE NUMBER:  
FROM ==> 1 ( FIRST PAGE, 0 ASSUMED )  
TO ==> 1 ( LAST PAGE, 0 ASSUMED )  
  
NUMBER OF COPIES ==>  
  
PRINTER ID. ==> 1608
```

(2) 日本語ラインプリンタ装置への清書出力

READY

① NLP FROM(ATFN.TEXT) JOB(*)

② L...*...1...*...2...*...3...*...4...*...5

③ //FXXXXA JOB ,CLASS=B

NLPコマンドは、ジョブ文の生成を行いませんので、②が出力された後、③のようにJOB文を入力してください。JOB文には作業領域の関係で、ジョブクラスBを指定してください。

(3) つづりチェックプログラム、. SPELLCHKコマンド

テキストファイルの単語が単語帳ファイルに登録してあるかどうか調べ、登録していない単語を未定義単語として、端末および未定義単語ファイルに出力します。また、誤ったつづりの単語を修正し、正しいつづりに置き換えた新しいテキストファイルを作成します。

(4) ATF命令に関する情報の問い合わせ、. . . TEACHコマンド

ATF命令に関する情報およびATF使用例を出力します。

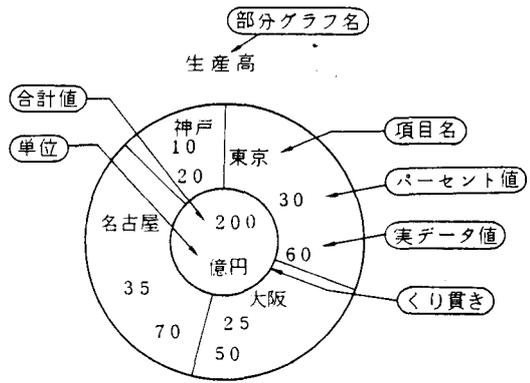
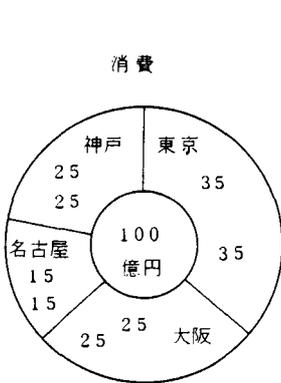
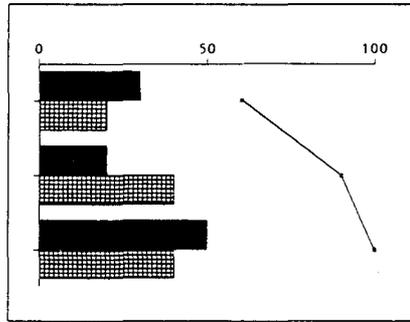
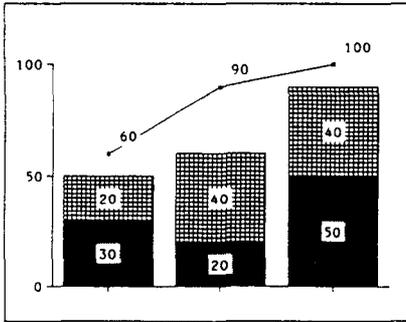
参考マニュアル

. FACOM OS IV/F4 MSP ATF使用手引書
FACOM ATF解説書

9. 会話型によるグラフ作成ソフトウェア"EGRET-1"について

EGRET-1は、ビジネスグラフィックスの一つであり、TSS配下で動作し、センター日本語端末室および、各事務部に設置してあるWDS端末機による利用が可能です。

出力例



使用例

LOGON TSS F1234 S(4000)

READY

EGRET1

処理を選択してください。

選択 ==> 2

- 0 セッション属性操作
- 1 利用手引
- 2 グラフ作成
- 3 グラフ/画面の再生
- X 終了

グラフ種類を選択して下さい。

選択 ==> 3

- 1 利用者定義グラフ
- 2 業務別グラフ
- 3 棒グラフ
- 4 折れ線グラフ
- 5 棒-折れ線グラフ
- 6 構成比グラフ
- 7 円グラフ
- 8 ヒストグラム
- 9 多角形グラフ
- 10 散布図
- * 現状グラフ

選択 ==> 1

1 標準棒グラフ

2 積上げ棒グラフ

グラフデータの入力フォームを指定して下さい。

行数 ==> 4

列数 ==> 3

桁数 ==> 6

————— < キーボード入力画面 > —————

列指標	1	2	3
行指標			
1			
2			
3			
4			

キーボード入力画面において、タイトルおよび数値を入力し、RETURNキーを押すとグラフの表示画面になる。

10. 学術情報センターの情報検索利用について

情報処理センターニュース99号および100号でお知らせしましたように、学術情報センターの情報検索サービスが本年4月より開始されました。

本学からは、情報処理センターの端末装置や、各研究室のパーソナルコンピュータをセンターの端末とすることにより、情報検索サービスを利用することができます。

学術情報センターは全国共同利用大型計算機センターの共通ユーザID制度で運用されていますので、大型計算機センターのユーザIDをお持ちの方はSINSEIコマンドで利用申請を行うことができます。まだ全国共同利用ユーザIDをお持ちでない方は、本センター事務室に利用申請書等を揃えていますので御連絡下さい。

次に具体的使用例を紹介いたします。詳細につきましては、本センター事務室に利用の手引が用意されていますのでお気軽に御相談下さい。(電話 内線2240)

パソコンをセンターの端末として利用する場合には、次の①～④の操作を行います。

- ① モデム又は音響カプラをパソコンに接続する。(モデム又は音響カプラをセンターで貸出しています。)
- ② パソコンをターミナルモードにする。
- ③ センターの計算機システムを呼び出す(接続する)ために電話をかける。
- ④ RETURNキー(又はBREAKキー)を押すとSYSTEM READYと出力される。

```
JCE1005 SYSTEM READY
LDGON ISS F1234 (1)
↑ PASSWORD ? (2)
```

```
KDS700011 F1234 LAST ACCESS AT 17:52:39 ON 87.153
KLEQ564551 F1234 LOGON IN PROGRESS AT 11:37:57 ON JUNE 3, 1987
JOB NO = TSU1719 CN(01)
READY
NVL NACSIS (3)
```

```
KCQ101011 N1ISS-G USER STARTED
KCQ101241 CONNECTED TO HOST - NACSIS (4)
```

```
LDGON A99999 (5)
JF112026A ENTER PASSWORD FOR A99999
```

```
JGP3001 A99999 ,LAST ACCESSED DATE=87.05.27 TIME=09.51.48
JE1100651 ISS A84128 STARTED TIME=11:41:26 DATE=87-06-03
>> YOUR ACCOUNT (A,$330,$14670,$15000) ATTRIBUTE (J) <<
>> JPM (6)
```

```
Welcome to NACSIS-IR JPM database. (Rel. 870319)
Copyright National Diet Library.
This database contains 148019 records.
For further information, enter ?INFO subcommand.
TYPE IN COMMAND (7)
```

```
1/ SEARCH 情報処理
SEARCH 情報処理
* 27 1/ K.情報処理
TYPE IN COMMAND (8)
2/ DISPLAY
DISPLAY
```

(1)

ACCN:0620319

TITLE:JISANTツマック 情報処理 1984 / 日本規格協会編---シス ハントツマック ショウホ(1984)

(2)

ACCN:0623693

TITLE:JISANTツマック 情報処理 1985 / 日本規格協会編---シス ハントツマック ショウホ(1985)

(3)

ACCN:0630952

TITLE:情報処理学会講演論文集 第30回全国大会(昭和60年前期)---ショウホウ ショリ カツカイ コ
ウシロ ショウホウ 30

(4)

ACCN:0662877

TITLE:情報処理学会講演論文集 第31回全国大会(昭和60年後期)---ショウホウ ショリ カツカイ コ
ウシロ ショウホウ 31

(5)

ACCN:0667419

TITLE:高密度通信処理における分散情報統合利用システムに関する研究開発報告書 (1985
) ---コウミツト ツウシン ショリ ニ オケル フランシシ ショウホウ トウコウ リヨウ システム ニ カンシル クンキョウ カイハツ
ホウシヨ

(6)

TYPE IN COMMAND

2/ END

(9)

End of NACSIS-IR JPM database.

Copyright National Diet Library.

DB-USE CHARGE= 30YEN

>> LOGOFF

(10)

JET110611 USER COMMAND PROFILE BEING STORED

* JSN=358014 CT=00:00:03 ET=00:28 MEMORY=2212KB OUT=0P

* DATABASE=\$60

* FILE=(47KB:\$0) ACCT=(A,\$60,\$390,\$14610)

JET100801 A99999 TSS SESSION ENDED TIME=12:09:03 DATE=87-06-03

KCQ101181 DISCONNECTED LINK BY HOST : NACSIS

NVT

END

(11)

KCQ101021 N1TSS-G USER ENDED

READY

LOGOFF

(12)

RETURN CODE : 0000

KEQ564701 F1234 LOGGED OFF AT 12:08:43 ON JUNE 3, 1987

KEQ542201 SESSION ENDED

(長崎大学：長大, 学術情報センター：学情と略します)

- (1) 長大計算機システムのTSS利用を開始する (LOGONコマンド)
- (2) 長大用パスワードを入力する
- (3) 学情と接続する (NVTコマンド)
- (4) 学情計算機システムのTSS利用を開始する (LOGONコマンド)
- (5) 学情用パスワードを入力する
- (6) 日本国内で発行された図書の著者、標題、出版者等の書誌情報を収録したデータベース (国立国会図書館作成) の検索を開始する
- (7) SEARCHコマンドにより "情報処理" を含む文献を検索する
27件見つかる
- (8) DISPLAYコマンドにより検索した標題を表示する
- (9) 検索を終了する
- (10) 学情計算機システムのTSSを終了する (LOGOFFコマンド)
- (11) 学情との接続を終了する (NVTのENDサブコマンド)
- (12) 長大計算機システムのTSS利用を終了する (LOGOFFコマンド)

その他詳しくは、「情報検索サービス利用の手引」(学術情報センター発行)を御参照下さい。

11. エラーメッセージの日本語表示コマンドについて

FORTRANエラーメッセージやMSPシステムメッセージ、COBOL85メッセージの内容を日本語端末で参照するためのコマンド"LSTMSGコマンド"の運用を開始しましたので御利用ください。コマンド入力形式は次の通りです。

コ マ ン ド	オ ペ ラ ン ド
LSTMSG	メッセージID または コード

(注意点)

- ・ メッセージIDが空白を含む場合は'-'を挿入
- ・ '-'で終わるメッセージは'-'を取り除く
- ・ 同一メッセージIDはすべて連続して表示

12. Prologの運用開始について

プログラミング言語 "Prolog" は、1972年にマルセイユ大学 (フランス) の Colmerauer によって開発され、ここ数年来、世に評判の高い言語で、日本の第5世代コンピュータプロジェクトの核言語に採用されています。この "Prolog" は内部に推論機能を備えているために知識情報処理の分野に適し、人工知能向け記述言語として注目されています。

使用方法 (開始と終了)

```
READY
PROLOG .....開始
| ?-

| ?- halt. ....終了
READY
```

PrologはもともとASCII英小文字ベースで設計された言語ですので使用に当たっては英小文字端末で御使用下さい。

Prologについては次号以降紹介しますが、7月17日開催のProlog講習会で詳しく解説致しますので奮って、御参加下さい。

参考マニュアル FACOM PROLOG 手引書

13. C言語の運用開始について

パソコンから大型コンピュータに至る種々のコンピュータに普及しているC言語の運用をセンターでも開始しました。

このC言語は、アメリカのベル研究所においてUNIXのOS（オペレーティング・システム）を記述するために1970年代のはじめに開発された言語です。C言語は、UNIXでは主力言語として、OSはもとよりCコンパイラ自体さらには各種のソフトウェア・ツールの開発に使われています。

C言語の主な特徴は次の通りです。

- ・プログラムは英小文字ベースで表現される
- ・プログラムは関数の集まりとして書かれる
- ・表現がコンパクトである。

begin, endの代わりに { , } と記述する
i=i+1の代わりに++iと記述するなど

- ・2進数、16進数、文字列の扱いが容易にできる。
アセンブリ言語のような細かな操作が可能であり数値計算にも扱える。
- ・異機種間でのプログラムの互換性がいい。

<使用方法>

- (1) プログラムの作成 (Pnnnn, TEST, C)

エディタでプログラムを作成する。FORTRANプログラムやデータ等の作成と同じ要領で作成できます。

- (2) CCコマンドによる翻訳

READY
CC TEST.Cロード・モジュールは通常A. LOADに作成される。

- (3) CALLコマンドによる実行

READY
CALL A.LOAD(TEST)

パソコン端末において利用する場合は、次のコマンドにより、コード変換テーブルを"USASCIIコード"に設定し、"\"は"≠"キーを使用してください。

SETCODE I(STAND ALPH) D(USASCII)

なお、センターでは9月頃より現在のオペレーティング・システム(FACOM OSIV/F4 MSP)に加えてUNIXオペレーティング・システムの運用開始を予定しています。

14. UTILISPの運用開始について

センターでは、"UTILISP (University of Tokyo Interactive LIST Processor)"の運用を開始しました。"UTILISP"は、東京大学和田研究室で開発されたもので、LISP言語の一種でありプログラムの作成と修正を対話的に行うよう作成されたものです。

LISP (LIST Processor) は、配列構造よりもリスト構造を持ったデータを処理するための言語で、人工知能用言語ともいわれ、次のような問題に適しています。

- ・論理学の命題計算
- ・代数多項式の四則演算、微分、積分
- ・多数の動的状態を発生するようなゲームの解
- ・患者のカルテ
- ・自然言語の処理
- ・辞典

これらの問題の計算は、数の単純な計算の繰り返しによって解かれるのではなく、施行錯誤によって解かれ、一般に"記号処理"と呼ばれています。

<UTILISPの起動と終了>

```
READY
UTILISP  . . . . .  起動
>      :
      :
>(QUIT) . . . . .  終了
READY
```

参考マニュアル

FACOM UTILISP手引書

15. PFDのレベルアップについて

PFDコマンド最新版の運用を開始しました。この最新版は従来のPFDと比較して、データセット内容の編集処理（EDIT）において新規データセット（プログラムやデータ）の作成ができ、またプログラム編集時にRUNサブコマンドの利用（翻訳・結合・実行処理）ができることなどの機能が追加されています。

従来のPFDを完全に最新版に移行させるためには、センターにおいても、もう少し作業をする必要がありますので、当分の間（7月末頃まで）新旧両版のPFDを運用します。そのために新旧両版の使い分けを以下の通りにしますが、移行作業完了後はPFDコマンドで新版のPFDの起動が行われます。

<使用方法>

READY

PFD旧版PFDの起動

READY

PFD20新版PFDの起動

同一セッション内では一度PFD20コマンドを入力すると、それ以降PFDと入力されても新版PFDが呼び出されます。

16. TSSセッションのキャンセルについて

TSSセッションをキャンセルしたい場合、センター事務室へ連絡しキャンセル依頼をする方法しかありませんでしたが、この度、他端末より利用者自身でキャンセルできるようになりました。

使用法は次の通りです。

```
LOGON TSS F0100 .....①
```

```
KDS70001I F0100      LAST ACCESS AT 17:21:28 ON 87.188
KEQ56455I F0100 LOGON IN PROGRESS AT 15:27:27 ON JULY 9, 1987
JOB NO = TSU8959 CN(01)
```

```
      :
      :
      :
センターメッセージ
      :
      :
      :
```

```
===== THIS IS A TSS CANCEL COMMAND =====
KEQ56700A ENTER USER NAME - .....②
F1234 .....③
PASSWORD ? .....④
KILL ACCEPT .....⑤
RETURN CODE : 0000
KEQ56470I F0100 LOGGED OFF AT 15:29:14 ON JULY 9, 1987+
KEQ54220I SESSION ENDED
***
```

- ①…必ず課題名は" F 0 1 0 0 "でログオンしパスワードは不要
- ②…課題名を入力しなさいという督促メッセージ
- ③…キャンセルするセッションの課題名の入力
- ④…指定した課題名のパスワードを英大文字で入力
- ⑤…キャンセルを受け付けた時のメッセージ

17. ハイレベル手順 (HDL C) による交換TSSサービスについて

構内交換回線のHDL C手順による交換TSSサービスを開始しました。このサービスはパソコン端末でセンターの計算機を利用するもので、今までの無手順 (TTY手順) 交換TSSサービスではできなかったフルスクリーンによるテキスト編集、ODM (日本語文章処理システム)、ATLAS (日英・英日自動翻訳システム) 等の使用が可能になりました。利用に際しては、パソコンをF6650日本語端末にエミュレートするプログラムと、通信速度2400bps、V. 22bis規格のモデムが必要です。

その他、御質問がありましたら内線2240まで御連絡ください。

18. C言語プログラムと他言語プログラムとの結合について

C言語プログラムと他言語プログラムは、以下の結合が可能です。

- ・ Cプログラムからアセンブラプログラムの呼び出し
- ・ アセンブラプログラムからCプログラムの呼び出し
- ・ CプログラムからFORTRANプログラムの呼び出し

次に、FORTRANプログラムとの結合の例を示します。

(例) ある値の平方根を求める。平方根はFORTRANのDSQRT組み込み関数である。(CプログラムはEDITコマンドにより内容識別修飾子"C"で作成)

(Cプログラム)

データセット名 DF.C

(FORTRANプログラム)

データセット名 EX1.FORT77

```
main()
{
double fsqrt();
double i,j;

for (i=1; i<10;i++)
{
j=fsqrt(&i);
printf("i=%e %n",i);
printf("sqrt=%e %n",j);
}
}
```

```
REAL FUNCTION FSQRT*8(I)
REAL*8 I
FSQRT=DSQRT(I)
RETURN
END
```

(コマンド入力………TTY端末による実行)

```
READY  
SETCODE I( STAND ALPH) D(USASCII)  
READY  
FORT77 EX1 LIL NOGO  
READY  
CC DF.C EX1.OBJ -WL,-L'SYS1.FORTLIB'  
READY  
CALL A.LOAD(DF)
```

詳しい説明は、マニュアルおよび参考資料を御覧ください。マニュアル等は、センター事務室に準備しておりますので御連絡下さい。

19. 会話型図形処理システム "GRAPHMAN" について

センター2階の特殊端末室のグラフィック端末機や1階日本語端末室のWDS端末機では、会話型図形処理システム "GRAPHMAN" が利用できます。

"GRAPHMAN" は、科学技術計算分野における計算結果データを対象とした会話型図形処理システムであり、ほかに簡単な計算処理も可能です。又、"GRAPHMAN" の機能は、コマンドにより以下のように分類されています。

分類	コマンド名	機能概要
演算・制御コマンド	ARRAY	配列変数を確保する。
	FREE	変数領域を解放する。
	CLEAR	すべての変数領域を解放する。
	PRINT	変数の値を出力する。
	算術代入コマンド	算術式の値を変数に代入する。
	配列代入コマンド	配列の各要素に値を代入する。
	WHILE~WEND	繰り返しの制御を行う。
	IF~ELSE~ENDIF	条件分岐の制御を行う。
	DO~DOEND	繰り返しの制御を行う。
	CANCEL	制御コマンドの入れ子を途中で解除する。
PDB操作コマンド	CREATE	PDBを創成する。
	PDB	使用するPDBの宣言を行う。
	DELPIC	PDBからピクチャを削除する。
	CONDENSE	PDBを圧縮する。
	SPACE	PDB内の領域の使用状況を出力する。
	RENAME	ピクチャ名を変更する。
	LISTC	PDBに登録されているピクチャ名の一覧を出力する。
	TRANSFER	ピクチャを別のPDBへ複製する。
図形操作コマンド	PDBCOPY	あるPDBのピクチャをすべて別のPDBへ複製する。
	USE	使用するピクチャを宣言する。
	LISTD	ピクチャに関する詳細情報を出力する。
	DISPLAY	ピクチャを作画する。
	ERASE	表示されている画面全体を消去する。
	ERASEC	画面上のコマンド部分だけを消去する。
	AGAIN	ERASEされた図形をもう一度表示する。
	DBCOPY	Batch-Copyデータセットを宣言する。
BCOPY	現在画面に表示されている図形をBatch-Copyデータセットに出力する。	

分類	コマンド名	機能概要
四 形 操 作 コ マ ン ド	SCOPY	現在画面に表示されている図形のハードコピーをとる。
	COLOR	色の指定を行う。
	PICKING	画面上の任意の位置の座標値を得る。
	ZOOMING	画面上の一部を拡大・縮小する。
	NEWPIC	新しいピクチャをPDBに登録する。
	[1] ONEDIM	データパターンONEDIMの計算結果データに登録する。
	[2] MESH2D	データパターンMESH2Dの計算結果データに登録する。
	[3] FLOW2N	データパターンFLOW2Nの計算結果データに登録する。
	[4] FLOW2R	データパターンFLOW2Rの計算結果データに登録する。
	[5] CONT2N	データパターンCONT2Nの計算結果データに登録する。
	[6] CONT2C	データパターンCONT2Cの計算結果データに登録する。
[7] CONT2R	データパターンCONT2Rの計算結果データに登録する。	
[8] MESH3D	データパターンMESH3Dの計算結果データに登録する。	
[9] BEGIN	いままでに登録されたデータを取消し、初期状態に戻す。	
[10] PICEND	データの登録が終了したことを宣言する。	
[11] END	NEWPICのサブコマンドモードを終了させる。	
OLDPIC	[1] LIST	PDBに格納されている計算結果データを変数領域にもってくる。 ピクチャに関する情報を出力する。またGETサブコマンドの使用方法に関する出力を行う。
	[2] GET	PDBから計算結果データを指定した配列上にもってくる。
	[3] END	OLDPICのサブコマンドモードを終了させる。
EDIT	[1] LIST	現在の図形編集データを変更する。
	[2] ORIGIN	現在の図形編集データを出力する。
	[3] FRAME	フレーム座標系の原点を設定する。
	[4] X	フレーム空間の大きさなどを設定する。
	[5] Y(又はL1)	X軸に関するパラメタを設定する。
	[6] L2	
	L3	
	R1	
R2	Y軸に関するパラメタを設定する。	
R3		
[7] Z	Z軸に関するパラメタを設定する。	
[8] END	EDITのサブコマンドモードを終了させる。	
EDIT COMMENT	[1] LIST	コメントの編集を行う。
	[2] INPUT	コメントに関する情報を出力する。
	[3] ~ [7] 行番号	インプットモードに変更する。
	[8] CHANGE	コメントの登録、変更、削除を行う。
	[9] RENUM	コメントに関するパラメタを変更する。
	[10] DELETE	行番号を振り直す。
	[11] GO	指定された行番号をもつコメントを削除する。
	[12] END	コメントを作画する。
	EDIT LINE	EDIT COMMENTのサブコマンドモードを終了させる。
	[1] LIST	折線データを編集する。
	[2] INPUT	折線データに関する情報を出力する。
	[3] 行番号	インプットモードに変更する。
[4] CHANGE	折線データの登録、変更、削除を行う。	
[5] GET	折線データに関するパラメタを変更する。	
[6] RENUM	折線データを指定した変数領域にもってくる。	
[7] DELETE	行番号を振り直す。	
[8] GO	指定された行番号をもつ折線データを削除する。	
[9] END	折線データを作画する。	
	EDIT LINEのサブコマンドモードを終了させる。	

分類	コマンド名	機能概要
図形 操 作 コ マ ン ド	EDIT ONEDIM [1] LIST [2] CURVE [3] END	現在の図形編集データを変更する。 現在の図形編集データを出力する。 曲線に関するパラメタを変更する。 EDIT ONEDIMのサブコマンドモードを終了させる。
	EDIT MESH2D [1] LIST [2] MESH [3] END	現在の図形編集データを変更する。 現在の図形編集データを出力する。 2次元メッシュ図のパラメタを変更する。 EDIT MESH2Dのサブコマンドモードを終了させる。
	EDIT FLOW2D [1] LIST [2] VECTOR [3] END	現在の図形編集データを変更する。 現在の図形編集データを出力する。 表示するベクトルの種類、大きさの指定を行う。 EDIT FLOW2Dのサブコマンドモードを終了させる。
	EDIT CONTOUR [1] LIST [2] AUTOHVAL [3] HVAL [4] GET [5] RANDOM [6] CYLINDER [7] SPLINE [8] END	現在の図形編集データを変更する。 現在の図形編集データを出力する。 等高線に関するパラメタを変更する。 等高線に関するパラメタを変更する。 ([2] と [3] では等高線の指定の仕方が異なる。) 等高線に関するパラメタ値を変数領域にもってくる。 データパターンCONT2Rに関するパラメタを変更する。 データパターンCONT2Cに関するパラメタを変更する。 等高線を引くときスプライン補間するかしないかを指定する。 EDIT CONTOURのサブコマンドモードを終了させる。
	EDIT PERSPECT [1] LIST [2] VIEWP [3] OBJECT [4] INTERVAL [5] HIDDEN [6] CONTOUR [7] ALPHA [8] GET [9] END	現在の図形編集データを変更する。 現在の図形編集データを出力する。 透視図の物体、画面、視点に関するパラメタを変更する。 物体の大きさに関するパラメタを変更する。 鳥瞰図の格子線に関するパラメタを変更する。 隠線処理に関するパラメタを変更する。 鳥瞰図を等高線でのみ表示するか否かを設定する。 多曲線の3次元図の α データを変更する。 多曲線の3次元図の α データを指定した変数領域にもってくる。 EDIT PERSPECTのサブコマンドモードを終了させる。
マ ク ロ 操 作 コ マ ン ド	DMACRO	マクロデータセットを宣言する。
	EDIT MACRO [1] LIST [2] INPUT [3] 行番号 [4] CHANGE [5] RENUM [6] DELETE [7] MSAVE [8] END	マクロの編集を行う。 マクロのテキストを出力する。 インプットモードに変更する。 テキストの登録、変更、削除を行う。 テキスト内の文字列を変更する。 行番号を振り直す。 指定された行番号をもつテキストを削除する。 編集中のマクロを指定したデータセットへ格納する。 EDIT MACROのサブコマンドモードを終了させる。
	*マクロ名	マクロを実行する。

GRAPHMANシステムは前述のようなコマンドを使って、作図のためのプログラミングを行い、マクロデータセットへ保存します。そして、GRAPHMANコマンドの中でマクロデータセットを定義することにより実行させ、処理（作図）結果をディスプレイ画面へ表示します。

<使用例>

(マクロデータセットの内容: GMACRO. DATA)

```

MACRO CONTOUR N
ARRAY X(&N) Y(&N) Z(&N &N)
XS=0.0
DX=10.0/(&N-1)
*
*
DO I=1,&N
  X(I)= XS
  Y(I)= XS
  XS=XS+DX
DOEND
*
*
DO I=1,&N
  XX=X(I)
  DO J=1,&N
    YY= Y(J)
    TEMP=EXP(YY)
    ZZ = XX*YY**3 + EXP(XX)
    Z(I,J) = TEMP/ZZ
  DOEND
DOEND
*
PDB *
NEWPIC CONTOUR
  CONT2N &N &N X Y Z
  PICEND
END S
EDIT
  Z MAX(2)
  ORI X(7)
  FRA XW(40) YW(45)
END S
EDIT CONTOUR
  AUTOH N(5)
END S
EDIT COMMENT
  10 X(60) Y(110) S(5) CH('XGRAPHMAN EXAMPLE XFXOR XI%NSTALLATION')
END S
DISPLAY
EDIT
  ORI X(52)
END S
DISPLAY BIRD
MEND

```

READY
GRAPHMAN

..... ①

GRAPHMAN V01L35 87-07-08

--- FOLLOWING DEVICES ARE SUPPORTED NOW. ---

- 1 NON GRAPHIC DISPLAY (CHARACTER DISPLAY)
- 2 F9431,F9432,F9433,F9434
- 3 T4006
- 4 T4010,T4012,T4013
- 5 T4014,T4015,T4016
- 6 NLP (F6715D,ETC)
- 7 XY-PLOTTER (F6201D,F6202B)
- 8 F9430 & SCOPY(F9436PL2)
- 9 NLP (A4 SIZE)
- 10 F6242

PLEASE SELECT DEVICE NUMBER --->2 ②

PLEASE WAIT A MINUTE. INITIALIZATION IS PROCEEDING NOW

>DMACRO GMACRO.DATA ③

>#CONTOUR 40 ④

... X(40) IS ALLOCATED.

... Y(40) IS ALLOCATED.

... Z(40,40) IS ALLOCATED.

PDB IS CREATING NOW.

>ENDG ⑤

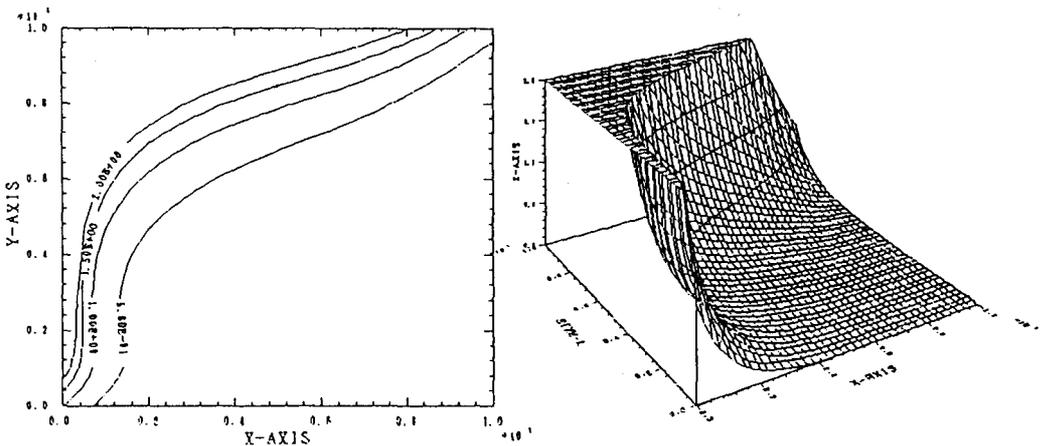
<< ALLOCATED STORAGE = 149KB / USED STORAGE = 37KB >>

READY

- ① GRAPHMANコマンド入力
- ② 端末機器の番号を入力
- ③ マクロデータセットの名前を指定
- ④ マクロ名を指定し、実行 (40. . マクロデータセットのパラメータと対応)
- ⑤ 終了の意味

<出力例>

GRAPHMAN Example For Installation



20. カタログドプロシジャ FORT 77 のパラメータについて

バッチジョブにおける FORTRAN プログラムの制御文において (カタログドプロシジャ : FORT 77) 、コンパイル時のパラメータの指定方法が下記のように変わりましたのでお知らせします。

旧 PARM.FORT='...'

新 OPTION='...'

2 1. バッチジョブ処理結果のラインプリンタ出力について

バッチジョブでの実行結果をラインプリンタ装置へ出力するコマンドを準備しましたので御利用下さい。但し、このコマンドを入力すると未出力結果がすべて出力されます。コマンドの入力方法は以下の通りです。

READY
@LPOUT

2 2. オフィスプリンタ (OPR) 装置の使用について

センター1階の日本語端末室、経済学部と医学部の図書館分館及び歯学部電算室にオフィスプリンタを設置していますが、このたび、図形出力も可能になりましたのでお知らせします。オフィスプリンタ装置は通常のラインプリンタ装置と違い、用紙はカット紙で常時、A4判、B4判の用紙が使用できます。次に、使用方法について説明します。

(1) 使用法

① 画面のハードコピーを取る場合

キーボードのPRINTキーを押す。センターのオフィスプリンタ装置を利用する場合は、WDS端末機のキーボードより利用が可能です。

この時の用紙は、オフィスプリンタ装置のパネルに表示されている用紙になります。

② データセットの内容を印刷する場合

DSPRINTコマンドを使用する。

(例) データセット名XXX.DATAの内容をオフィスプリンタ装置I608へ印刷
用紙はA4判へ

READY
DSPRINT XXX.DATA I608 LA(A4)

オフィスプリンタ設置場所	端末プリンタ名
センター日本語端末室	I608
経済学部分館 (附属図書館)	E496
医学分館 (附属図書館)	M4A6
歯学部電算室	D4B6

ラインプリンタ用紙のイメージで1行136文字印刷する場合は"LA(A4)"の替わりに"LP"を指定する。

③ 統計処理パッケージANALYSTによる図形出力を行う場合

- ・ 起動前に図形出力用の中間ファイルを割り当てる。
(データセット名をOPR. DATAとする)

READY

ALLOC F(ANAOPR) DA(OPR.DATA) SHR

データセット属性 VBA LRECL=255 BLKSIZE=259

- ・ ANALYST処理の中でグラフ表示後、サブコマンド投入
PIE__GPUT OPR保存された旨メッセージが出る
- ・ 図形データセットプリント (出力先のプリンタ装置をI608とする場合)

READY

DSPRINT OPR.DATA I608 DOC CC

DSPRINTコマンドについての詳しい説明はマニュアル等を参照して下さい。

④ XYプロッターサブルーチンによる図形出力を行う場合

XYプロッターサブルーチンを含むFORTRANプログラム (XYP. FORT) のロードモジュール (XYP. LOAD (NO1)) を作成する。

READY

FORT XYP FIXED OBJ(ABC)

READY

LINK ABC LOAD(XYP(NO1)) FORTLIB

XYP. LOAD (NO1) を実行させ、図形情報データセットをZUKEI. DATAとし、OPR装置：I608のA4判の用紙へ出力する。

READY

ALLOCATE F(FT16F001) DA(ZUKEI.DATA) NEW-
CAT UNIT(PUB) SP(10 10) TR

READY

CALL XYP.LOAD(NO1) 'PSP(NLP)'

READY

DSPRINT ZUKEI.DATA I608 LA(A4) DOC
(注)

READY

(注：B4版へ出力させる場合は、"B4"とする。)

一枚の用紙へ出力できない場合は、続きが次の用紙へ出力されます。

⑤ 日本語文書の清書出力

(英日自動翻訳システムATLAS IIの翻訳結果の出力も同じです)

日本語文書処理システム"ODM"を使用し、文書を作成し"ODM"システムの中の印刷メニューにより出力処理を行います。

LOGON TSS F1234 S(2000)

:

READY

ODM

```

V10L40-----< 文書処理システム初期パネル >----- 値を入力せよ
処理選択 ===>          パスワード ===>
                           ユーザID- F1234   時刻- 09:38
0  属性定義              - 文書処理システムの属性の定義
1  文書作成              - 新規文書の作成・編集
2  文書更新              - 既存文書の更新
3  既存文書の処理      - 文書の表示, 印刷, 削除, 複写, 移動, 結合, 翻訳,
                           メール発信, 文書の取出し, 文書情報表示, 文書情報変更
4  メール受信            - 受信メール(個人宛, メールボックス宛, 掲示板)の処理
5  その他の機能          - 文書の登録, 文書情報一覧印刷, 発信簿処理, 受信簿処理,
                           宛先リスト処理, 印刷依頼取消し, 受信状況確認
6  使用方法の説明        - 文書処理システムの使用方法的説明
7  PFD                   - PFDの呼び出し
N  新規データセット      - 新規データセットの割り当て
X  終了                  - 文書処理システムの終了

データセット名 ===>

'END'キーを押すことにより, 文書処理システムは終了する.
    
```

∫

```

文書作成-----< 編集後処理 >----- 保存完了
処理選択 ===>
1  表示                  - 文書の表示
2  保存                  - 文私用・共用ライブラリへの保存
3  メール発信            - 文書のメール発信
4  印刷                  - 文書の印刷
5  再編集                - 文書の再編集
6  グラフ・図形処理      - グラフ・図形の組込み処理
    
```

∫

文章の作成については、説明書「文書処理システムODMの用法」を参照して下さい。

プリンタ装置 (I 6 0 8) へ印刷をする場合次のメニューで処理選択「4」を入力する。

```

文書作成-----< 編集後処理 >-----
処理選択 ==> 4

 1 表示          - 文書の表示
 2 保存          - 私有・共用ライブラリへの保存
 3 メール発信   - 文書のメール発信
 4 印刷          - 文書の印刷
 5 再編集       - 文書の再編集
 6 グラフ・図形処理 - グラフ・図形の組込み処理
  
```

端末プリンタ名はそれぞれの番号を入力し、ENTERキーを押す。

```

文書作成-----< 印刷出力先 >-----

出力先 ==> 1
 1 端末.....端末プリンタ名 ==> I608
 2 センタ.....出力クラス、 ==> 0
                                     文書識別番号:
複製 -----
印刷部数 ==> 1                      (1-255)
ページ複写数 .....
割付開始ページ番号 ==> 1          (1-9999)
印刷ページ範囲 (1-9999)
 開始 ==> 1                      終了 ==> 9999
印刷文書形式 ==> 1
 1 標準      2 印刷時指定
印刷方式 ==> 2
 1 バッチ   2 オンライン
対訳文書印刷形式 ==> 1          (対訳文書以外は無指定)
 1 左右対訳 2 訳文   3 原文   4 全文
ジョブ文指定 (バッチ印刷方式時有効)
==> //F1234Z JOB ,CLASS=A
==> //*
==> //*
==> //*
  
```

この後、自動的にオフィスプリンタ装置より出力が開始される。

2.3. 大型計算機センター（ネットワーク利用）におけるフルスクリーン編集について

センターではこの度、九州大学大型計算機センターで開発されました"フルスクリーン NVTユーザ (FNVT)" を入手し、運用を開始しました。これは、フルスクリーン型端末 (F9526、F6650など) で、TTYフルスクリーンエミュレーションを行うものです。TTY型端末用フルスクリーンエディタには、富士通のPFDと日立のASPENがありますので、富士通系センター (九大・京大・名大)、及び日立系センター (東大・北大) でネットワークを経由したフルスクリーン編集が可能です。次に、使用方法を説明します。

・ネットワーク利用コマンド

コマンド名	オペランド
FNVT	ホスト名

・使用例

九州大学のPFDを利用する場合

コマンドは" PFD TTYTYPE"と入力する。

```

READY
FNVT KYUSHU
*** NVT USER START ***
*** CONNECT TO HOST ***
ENTER USERID -
██████████
+ PASSWORD ?
██████████
KDS70001I ██████████ LAST ACCESS AT 09:57:05 ON 87.254
JOB NO = TSU2420 ·CN(01)
KEQ56455I ██████████ LOGON IN PROGRESS AT 11:04:34 ON SEPTEMBER 11, 1987
KEQ56951I NO BROADCAST MESSAGES
READY
PFD TTYTYPE

```

-----< PFD PRIMARY OPTION MENU >-----
OPTION ==>

0	ATTRIBUTES	- DEFINE PFD AND TERMINAL ATTRIBUTES	USERID	- ██████████
1	BROWSE	- READ SOURCE DATA OR OUTPUT LISTINGS	TIME	- 11:05
2	EDIT	- CREATE OR CHANGE SOURCE DATA	TERMINAL	- F9526
3	UTILITY	- PERFORM PFD UTILITY FUNCTIONS	PF KEYS	- 24
4	BACKGROUND	- SUBMIT JOB TO COMPILE, ASSEMBLE, OR LINK EDIT	KANA FEATURE	- NO
5	BACKGROUND	- SUBMIT JOB TO COMPILE, ASSEMBLE, OR LINK EDIT		
6	TSS	- EXECUTE TSS COMMAND OR CLIST UNDER PFD		
7	TEST	- TEST MENUS, MESSAGES, OR PROGRAMS		
H	HELP	- GET INFORMATION ABOUT PFD		
X	EXIT	- TERMINATE PFD USING LIST/LOG DEFAULTS		

PRESS END KEY TO TERMINATE PFD THROUGH PFD TERMINATION MENU

東京大学のASPENを利用する場合

コマンドは"ASPEN + PSCM"と入力する。

```
READY
FNVT TOKYO
*** NVT USER START ***
*** CONNECT TO HOST ***
LOGON ██████████
JET12026A ENTER PASSWORD FOR ██████████ -
WWWWWWWWRRRRRRRRGGGGGGGGMMMMMMMM88888888 ██████████

JDT253I ██████████ LAST EXECUTION DATE=87.09.08 TIME=09.41.40
JET10065I TSS A71183 STARTED TIME=11:07:20 DATE=87-09-11
# 'TERMNIAL TYPE' NO HYOUJUN-CHI GA "T80" KARA "J" NI NARIMASHITA. #
# TERMINAL TYPE = 'J' DE EDIT COMMAND WO SHIYOU SURU TOKI NIWA #
# CHUUI GA HITUYOU DESU. KUWASHIKU WA '>>NEWS' WO GORAN KUDASAI. #
'>>NEWS' O GORAN KUDASAI. UPDATE 87-09-07
WELCOME TO M682H.
YOUR LAST ACCOUNT WAS $3000($2902)
>> ASPEN + PSCM
```

@ASPEN ***** FUNCTION MENU ***** ----- *

```
1 @EDIT      EDIT SYMBOLIC DATA
2 @VIEW      DISPLAY AND FIND
3 @TSS       ENTER TSS COMMAND
4 @FRONT     PROGRAM PROCESSING (TSS)
5 @BEHIND    PROGRAM PROCESSING (BATCH)
6 @UTILITY   UTILITY
7 @ENVIRON   UPDATE INFORMATION FOR ENVIRONMENT
8 @SLIST     SYSOUT DATA LIST
9 @END       END OF ASPEN

??          GUIDE INFORMATION FOR ASPEN
```

ALL RIGHTS RESERVED, COPYRIGHT(C)1985,1987,HITACHI,LTD.

COMMAND (

24. WDS端末における日本語入力について

センター1階日本語端末室および各事務部に設置していますWDS端末機では、日本語辞書フロッピーを利用した日本語入力が可能です。これは、データベース検索時にキーワードとして日本語入力を行う場合や、日本語データ処理をする場合に使われます。御利用下さい。次に使用例を示します。

使用例：キーワードに日本語を入力してのデータベース検索

学術情報センターのデータベース"JPM (日本国内で発行された図書の著者、標題出版等の書誌情報。国立国会図書館作成)"の検索において、"情報処理"というキーワードで検索する。

```
READY
NVT NACISIS
KCQ101011 NITSS-G USER STARTED
KCQ101241 CONNECTED TO HOST - NACISIS
LOGON ██████████
```

```
>> JPM CAPS
```

```
TYPE IN COMMAND
1/ SEARCH じょうほうしより
```

FLP (辞書) をセットし コントロール + 辞書参照 キーを押す。
ローマ字入力モードとなり、ローマ字入力で"JYOUHQUSYORI"と入力する。
画面は平仮名表示になる。
変換 キーを押す。 ("情報処理"と表示)
正しく変換されない時は再度 変換 キーを押す。
正しく変換された時はコマンドの実行のため 実行 キーを押し、次の処理を行う。
通常のコマンドを入力する場合は、辞書参照 キーを再度押し、辞書参照モードを終了させる。

カタカナ文字を作成する時は、カタカナ キーを押し、入力はローマ字入力で行い、変換キーを押し、ひらがな文字を作成する時は、ひらがな キーを押し、ローマ字入力をし、無変換キーを押す。

25. PFDシステムのレベルアップについて

このたび、PFD (Programming Facility for Display users) システムのレベルアップを行いました。

新しい機能は主にオプション"2"の"EDIT (データセットの内容を編集する)"における処理について以下の通りです。御利用下さい。

① 新規データセットの作成が可能になる。

SPACE量は1TRK (トラック: 27KB)

② EDITの新コマンド及び新行コマンド

- RUNサブコマンド

編集中のプログラムの実行処理ができる。

- EDITコマンド

編集中のデータセットを終了せずに、他のデータセットを編集ができる。

- LCHANGE (logical CHANGE) コマンド

文字列オペランドに論理式の指定ができる。

- LFIN D (Logical FIND) コマンド

文字列オペランドに論理式の指定ができる。

- CE (Copy Extension), AE (After Extension),

BE (Before Extension) 行コマンド

画面分割時、両画面がEDITデータ表示画面である場合に一方の画面から他方の画面へ行の複写を行う。

- CP (Copy Plural) 行コマンド

複写元1個所に対し複写先n個所の行の複写を行う。

- CS (Copy Shift), CT (Copy Text), MS (Move Shift), MT (Move Text) 行コマンド

行の併合を行う。

③ EDITにおける既存コマンドのオペランドの追加

- FIND コマンド

OLオペランドを指定することにより、行にまたがる文字検索ができる。

26. フロー制御サービス開始について

交換回線（1200/2400bps：TTY手順端末）利用において、フロー制御の機能を付加しましたのでお知らせします。

フロー制御とは、ホストと端末の間におけるデータ転送時に通信速度を速くしたり、一度に転送するデータが多量になった場合などに通信データの欠落が起こる場合があり、これを防止する為の手法です。

フロー制御には、①端末側での受信用 ②ホスト側での送信用とがあります。

① 端末側での受信データのフロー制御（NEC PC9801の場合）

受信バッファの中身が4分3を越えるとホスト側へ制御コードDC3（16進数13）を送信し、一時停止をする。また、4分の1より少なくなると制御コードDC1（16進数11）を送信し、ホスト側からの送信再開を要求する。これらの機能は、TERM文で、

"X"パラメータを指定することで、有効となる。

(例) TERM "COM:E72XS"

フロー制御あり

② ホスト側での送信データのフロー制御

ホスト側でデータを送信中に、制御コードDC3（CTRL+Sキー押下）を受信した場合、送信を一時中断する機能であり、再開は、制御コードDC1（CTRL+Qキー押下：NEC PC9801ではリターンキー）を受信することで行う。

これらの機能は、TTYコマンドでオペランド"T4010"を指定することで有効となる。

コマンド名	オペランド
TTY	[LIST TW T4010]

オペランドの説明

LIST : 現在の端末タイプを表示する

TW : 低速表示、フロー制御なし

T4010 : 高速表示、フロー制御あり

なお、セッション開設直後はTWが選択されている。

又、①のフロー制御機能を備えた端末であれば、端末の受信バッファオーバーフローを抑止できるので、データの欠落無しに高速な利用が可能となる。

27. PFDEコマンドの利用開始について

TSSにおけるディスプレイ指向型のプログラム開発支援システムには、PFD (Programming Facility for Display users) コマンドのほかに、PFDEコマンドがあります。PFDEコマンドは、データセット名一覧が画面に表示され、データセット編集等の処理をする場合に適したコマンドです。次に、使用例を示します。

<使用例>

READY

PFDE

```

-----< データセット一覧 >-----移動量====> PAGE
コマンド====>
ユーザ識別修飾子：
          ユーザ登録名-      時間-
***** データセット名 -----< コマンド入力フィールド -メッセージ-----
***** ABC.DATA          -
***** ATF.TEXT          -
***** B.BASIC           -
***** BATCH.CNTL       -
***** DSPRINT.N00234    -
***** EIBUN.DATA        -
***** GLOG.DATA         -
***** GWORK.DATA        -
***** HEX.DATA          -
***** IMAG.DATA         -
***** IMAGELIB.DATA     -
***** JAPANESE.DATA     -
***** JISYO.DATA        -
***** JPN.DATA          -
***** JSDPTPCH.CLIST    -
***** JSDPTPCH.CNTL    -
***** KOUGI.DATA        -
***** MORI.TEXT         -
***** NEWS.TEXT         -

```

上記メニューにおいて、処理するデータセットに対し、“コマンド入力フィールド”にコマンドを入力し処理を行います。“EDIT”コマンドによる編集の各機能については、PFDコマンドのテキスト編集機能と同じです。詳しくは、下記マニュアルを御参照下さい。

FACOM OS IV/F4 MSP

PFDE使用手引書 プログラム開発機能編

28. データセット整理について

最近、共用ボリューム（データセットを保存するボリューム）の空き領域が少なくなっています。不要なデータセットは削除し、また、無駄に領域を確保している場合は、その領域の解放処理を行って下さい。（データセットの確保量はDSLISTコマンドで表示した場合、PHYSICAL SPACEにあたりデータセット料金はこの確保量で課金されます。）

次にデータセットの整理について、TSSによる処理例を示します。

(1) データセットの未使用領域を解放し使用量を減らす。

(イ) Fnnnn, ABC, FORT77の解放

```
READY  
RELEASE ABC, FORT77
```

(ロ) Fnnnn, DEF, FORT77とFnnnn, GHI, DATAを解放

```
READY  
RELEASE (DEF, FORT77 GHI, DATA)
```

データセット名は先頭の課題名を除いたデータセット名すべてを指定する。

(2) データセットを削除する。

(イ) Fnnnn, AAA, FORT77の削除

```
READY  
DELETE AAA
```

(ロ) Fnnnn, BBB, FORT77(A)の削除(区分データセット)

```
READY  
DELETE BBB(A)
```

(3) 区分データセットに複写し直す

順データセット Fnnnn, AAA, FORT77を区分データセット Fnnnn, BB, FORT77(AA)に複写する。

```
READY  
COPY AAA, FORT77 BB, FORT77(AA)
```

(4) 同一課題の不要領域を解放する。

同一課題すべてのデータセット中での不要領域を解放するTSSコマンドで"@RELEASE"コマンドがあります。

使用例

```
READY
@RELEASE
Fnnnn. PS. DATA  RELEASED
KEQ526401 CONDENSE PROCEEDING ~~~
Fnnnn. PO. DATA  RELEASED
TOTAL RELEASE SPACE=10KB
READY
```

但し、このコマンドの実行には、時間がかかりますので、なるべくセッション開始時に実行する様にして下さい。

29. データセット名の命名規約について

データセットを作成する時、データセット名を定義しますが、形式は、次のとおりです。

ユーザ識別修飾子	・	ユーザ指定名	・	内容識別修飾子
①		②		③

- ①…Fnnnn (nnnn : 課題番号)
- ②…利用者が任意につける。(英字で始まる8文字以内の英数字の列)
- ③…システムが定めた特定の文字列で、データセットの内容を示すために用いられる。
(次ページに示す。)

最近、この命名規約に合わないデータセット名が作成されてますが、RENAMEコマンドで名前を変更するようお願いします。

また、命名規約に合わないデータセットは、今後定期的に、センターの方で削除致します。御了承ください。

30. TTY端末におけるコード系の変更について

TSS処理が主流となった現在、パソコン端末による利用が増えて来ています。パソコンでは、ASCII (American Standard Code for Information Interchange) 系のコードで、英字の大文字、小文字、カタカナの混在使用が可能です。

しかし、センターのホスト計算機では、従来からEBCDIC (Extended Binary Coded Decimal for Interchange Code) というコード系が使われて、このコード系では、英字の小文字とカタカナが重複して定義されているため、これらの混在使用が不可能です。パソコン端末がセンターに接続された場合、英小文字を使用するモードに設定して運用していますが、処理の都合上、利用者側で端末の属性や、プログラムにあった内部コードを選択することが出来ます。コード系は次ページに示す5種類 ((a) ~ (e)) で、特に拡張EBCDICコード (EXTENDED KANA および、EXTENDED ALPHA) では、英小文字とカタカナの混在使用が可能です。また、2. に示す大学間ネットワーク利用時におけるコード変換を動的に指定することにより、学術情報センターの情報検索出力時に有効となります。

- (a) INTERNAL (STANDARD ALPHA) DEVICE (ASCII)
- (b) INTERNAL (STANDARD ALPHA) DEVICE (USASCII)
- (c) INTERNAL (STANDARD KANA) DEVICE (JIS)
- (d) INTERNAL (EXTENDED ALPHA) DEVICE (JISCII)
- (e) INTERNAL (EXTENDED KANA) DEVICE (JISCII)

以下に (b) (d) (e) のコード表を示します。

INTERNAL(STANDARD ALPHA)-DEVICE(USASC II)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0	NUL	DLE	US		SP	&	-						{	}	\	0
1	SOH	DC1	SOS			/			a	j	~		A	J		1
2	STX	DC2	FS	SYN					b	k	s		B	K	S	2
3	ETX	DC3	TM						c	l	t		C	L	T	3
4	FF	RES	HYP	FN					d	m	u		D	M	U	4
5	HT	LF	LF	RS					e	n	v		E	N	V	5
6	LC	BS	ETB	UC					f	o	w		F	O	W	6
7	DEL	IL	ESC	EOT					g	p	x		G	P	X	7
8	UB	CAN							h	q	y		H	Q	Y	8
9	ULF	EM							i	r	z		I	R	Z	9
A	SMM	TC	SM	[]		:									
B	VT	CU1	CU2	CU3	.	\$	+									
C	FF	FS		DC4	<	*	%	@								
D	CR	GS	ENQ	NAK	()	-	'								
E	SO	RS	ACK		+	:	>	=								
F	SI	US	BEL	SUB	/	^	?	'								

□ ASCIIに定義されていないコードで、GEN指定の「未定義コード置き換え文字」に変換される。指定されていないと、SUBコードに変換される。(送替)

①はデバイスコード、②はホストで認識するコード。

INTERNAL(EXTENDED ALPHA)-DEVICE(JISCI1)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F	
0	NUL	DLE	DS		SP	&	-	j	s	ソ	w	y	{	}	S	0	
1	SOH	DC1	SOS		o	(=)	/	k	7	チ	~	z	A	J		1	
2	STX	DC2	FS	SYN	「	(*)	b	l	イ	チ	へ		B	K	S	2	
3	ETX	TM			」	(+)	c	m	ウ	ツ	ホ		C	L	T	3	
4	PF	RES	BYP	PN	·	(=)	d	n	エ	チ	マ		D	M	U	4	
5	HT	NL	LF	RS	·	(=)	e	o	オ	ト	ミ		E	N	V	5	
6	LC	BS	ETB	UC	7	(=)	f	p	カ	ナ	ム		F	O	W	6	
7	DEL	IL	ESC	EOT	(7)		g	q	キ	ニ	ノ		G	P	X	7	
8	UE	CAN			(1)	-	h	r	ク	ス	モ		H	Q	Y	8	
9	RLF	EM			(7)		a	i	、	ア	ホ	ヤ		I	R	Z	9
A	SMM	CC	SM		[]	!	;	:	コ	ノ	ユ	レ				
B	VT	CU1	CU2	CU3	·	¥	·	キ	l	u	x	ロ					
C	FF	FS	IFS	DC4	<	*	多	@	サ	v	ヨ	ワ					
D	CR	OS	IOS	ENQ	NAK	()	-	'	シ	ハ	ラ	ン				
E	SO	RS	IRS	ACK		-	:	>	=	ス	ヒ	リ	。				
F	SI	US	IUS	BEL	SUB	!	^	?	'	セ	フ	ル	。				



JISCI1 に定義されていないコードで、GEN 指定の '未定義コード置き換え文字' に変換される。



①はデバイスコード、②はホストで認識するコード。

INTERNAL(EXTENDED KANA)-DEVICE(JISC11)

0	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0	NUL	DLE	/DS		SP	&	ー	コ	テ	ハ	ム	リ	{	}	;	0
1	SOH	DC1	/SOS		。	(=)	/	ナ	a	j	ー	ル	A	J		1
2	STX	DC2	/FS	SYN	「	(*)	イ	シ	b	k	s	レ	B	K	S	2
3	ETX	DC3	/TM		」	(+)	ウ	ス	c	l	t	ロ	C	L	T	3
4	/PF	/RES	/BYE	/PN	、	(=)	エ	セ	d	m	u	フ	D	M	U	4
5	HT	NL	LF	/RS	。	(=)	オ	ソ	e	n	v	ン	E	N	V	5
6	/LC	BS	ETB	/UC	ヲ	(/)	カ	ク	f	o	w	”	F	O	W	6
7	DEL	/IL	ESC	EOT	(?)		キ	チ	g	p	x	。	G	P	X	7
8	/GE	CAN			(f)	-	ク	ノ	h	q	y		H	Q	Y	8
9	/HLP	EM			(?)	フ	ケ	、	i	r	z		I	R	Z	9
A	/SNM	/CC	/SM		{	}		:	;	レ	ノ					
B	VT	/CU1	/CU2	/CU3	。	¥	。	*	ナ	フ	セ					
C	FF	/FS	/IFS	DC4	<	*	※	@	=	へ	ヤ					
D	CR	/US	/TOS	ENQ	NAK	()	-	.	ス	ホ	ユ				
E	SO	/RS	/IRS	ACK		+	:	>	=	ホ	マ	ヨ				
F	SI	/US	/IUS	BEL	SUB	!	^	?	*	ノ	ミ	ラ				



JISC11に定義されていないコードで、GEN指定の'未定義コード置き換え文字'に変換される。



①はデバイスコード、②はホストで認識するコード。

これらのコード系への設定変更は、"SETCODE"コマンドで行います。

コ マ ン ド	オ ペ ラ ン ド
SETCODE	[INTERNAL ([STANDARD] [ALPHA]) [EXTENDED] [KANJI])] [DEVICE ({ASCII JIS JISCII USASCII})] [LIST]

オペランドの説明

INTERNAL ({STANDARD ALPHA}
 {EXTENDED KANA})

(端末との入出力の際に基本となる内部コードを定義する。)

指定できるテーブルは、STANDARD ALPHA、STANDARD KANA、EXTENDED ALPHA、EXTENDED KANAの4種類である。INTERNALオペランドを指定し、STANDARD、EXTENDEDの指定がないと STANDARD が、ALPHA、KANJIの指定がないと ALPHA が指定されたものとみなされます。

DEVICE ({ASCII | JIS | JISCII | USASCII})

(現在使用している端末のコード系を宣言する。)

このオペランドを省略すると、現在、システムが有効とみなしているコード系がとられ、ASCII、USASCIIは英小文字あり、JISはカナ文字あり、JISCIIは両方ありの端末で指定します。

LIST

現在使用している内部コード、端末コードの種類を表示します。SETCODEコマンドがオペランドの指定なしで入力されると、LISTが指定されたものとみなします。

3.1. 大学間ネットワーク利用 (TSS処理) におけるコード変換について

大学間ネットワーク利用におけるTSS処理において、送受信データのコード変換が動的に指定できるようになりましたのでお知らせします。コード系は次に示す5種類です。

- (1) EBCDIC (英小文字) コード : 英数字文字セット用コード
- (2) 拡張EBCDIC (英小文字ベース, カナ文字付き) コード : カナ文字文字セット用コード (カナ文字付き)
- (3) 拡張EBCDIC (カナ文字ベース, 英小文字付き) コード : 英数字文字セット用コード (英小文字付き)
- (4) EBCDIC (カナ) コード : カタカナ文字セット用コード (英小文字付き)
- (5) EBCDIC (ASCII) コード : カタカナ文字セット用コード (USASCII相当のコード)

これらは、TSSユーザ (本センターから他大学計算機センターを利用する場合) が使用するコード系の種類の表示・変更のための"@CODE"コマンド、及びTSSサーバ (他

大学計算機センターから本センターを利用する場合) が使用する " NVTCODE " コマンドにより指定します。コマンドは、次の通りです。

・@CODEコマンド

コマンド名	オペランド												
@CODE	<table border="0"> <tr> <td>[STANDARD]</td> <td>[ALPHA]</td> </tr> <tr> <td></td> <td>KANA</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ASCII</td> </tr> <tr> <td>[EXTENDED]</td> <td>[ALPHA]</td> </tr> <tr> <td></td> <td>KANA</td> </tr> <tr> <td>[LIST]</td> <td></td> </tr> </table>	[STANDARD]	[ALPHA]		KANA		ASCII	[EXTENDED]	[ALPHA]		KANA	[LIST]	
[STANDARD]	[ALPHA]												
	KANA												
	ASCII												
[EXTENDED]	[ALPHA]												
	KANA												
[LIST]													

・NVTCODEコマンド

コマンド名	オペランド												
NVTCODE	<table border="0"> <tr> <td>[STANDARD]</td> <td>[ALPHA]</td> </tr> <tr> <td></td> <td>KANA</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ASCII</td> </tr> <tr> <td>[EXTENDED]</td> <td>[ALPHA]</td> </tr> <tr> <td></td> <td>KANA</td> </tr> <tr> <td>[LIST]</td> <td></td> </tr> </table>	[STANDARD]	[ALPHA]		KANA		ASCII	[EXTENDED]	[ALPHA]		KANA	[LIST]	
[STANDARD]	[ALPHA]												
	KANA												
	ASCII												
[EXTENDED]	[ALPHA]												
	KANA												
[LIST]													

[] は省略可能

オペランドの説明は、以下の通りです。

STANDARD ALPHA. . . EBCDIC (英小文字) コード
 KANA. EBCDIC (カナ) コード
 ASCII. EBCDIC (ASCII) コード
 EXTENDED ALPHA. . . 拡張EBCDIC (英小文字) コード
 KANA. 拡張EBCDIC (カナ) コード
 (セッション開設時は " STANDARD ALPHA " に設定されています。)

パソコン端末での学術情報センターのデータベース検索結果の表示において、従来、英小文字・カタカナ及び、漢字・ひらがな文字の混在表示ができませんでしたが、端末のコード系を

" SETCODE " コマンドでカナ文字使用にし、データ送受信のコード系を " @CODE " コマンドで変更することにより、表示が可能になりました。

但し、パソコン端末で利用する場合は、ターミナルモードの設定において、改行時に " LF " 信号を送信しないモードに設定する必要があります。次に使用例を示します。

```

LOGON TSS F9999/password  長大センターをLOGONする
KDS700011 F9999      LAST ACCESS AT 14:41:49 ON 87.351
JOB NO = TSU6493 CN(01)
KEQ564551 F9999 LOGON IN PROGRESS AT 14:43:24 ON DECEMBER 17, 1987
KEQ569511 NO BROADCAST MESSAGES
READY
SETCODE I(E K) D(JISCI)  端末のコード系をJISCIコード(英小文字、カナ文字あり)に設定し、
READY                      内部コードはEXTENDED KANAを使用する。
NVT NACSIS  4
KCQ101011 NITSS-G USER STARTED
KCQ101241 CONNECTED TO HOST - NACSIS
LOGON #####  学情センターをLOGONする
JET12026A ENTER PASSWORD FOR ##### -
password  4

```

```

JGP3001 ##### ,LAST ACCESSED DATE=87.12.17 TIME=12.00.20
JET100651 TSS ##### STARTED TIME=14:44:42 DATE=87-12-17
>> YOUR ACCOUNT (A,Y990,¥14010,¥15000) ATTRIBUTE (J) <<
>>@CODE 4
KCQ101331 NVT USER CODE(STANDARD ASCII)
@CODE E AL  4      データ受信コードをEXTENDED ALPHAにする
KCQ101341 CHANGED NVT USER CODE(EXTENDED ALPHA)
JPM 4
@

```

```

Welcome to NACSIS-IR JPM database. (Rel. 871030)
Copyright National Diet Library.
This database contains 678512 records.
For further information, enter ?INFO subcommand.

```

```

TYPE IN COMMAND
1/ S UNIX  4
      S UNIX
*      27   1/  K.UNIX

```

```

TYPE IN COMMAND
2/ D<
      D

```

```

-----
(      1)
ACCN:0393555
TITL:標準UNIXハンドブック / Richard Gauthier 著 ; アスキー・マイクロソフト監訳 11ヒョウシ ユニックス
      ハンドブック

```

```

-----
(      2)
ACCN:0483348
TITL:UNIX / 石田晴久 著 11ユニックス

```

```

-----
(      3)
ACCN:0497564
TITL:UNIX入門 / レッカト・マス、シオン・イェーツ共著 ; 1/0編集部訳 11ユニックス ニュウモン

```

```

-----
(      4)
ACCN:0529323
TITL:UNIXシステム入門 1 / H.マキルトン,R.モガン著 ; 玄光男,荒実訳 11ユニックス システム ニュウモン 1

```

3 2. 日本語ラインプリンタ装置 (F6715E2) 出力の文字セットの追加について

センター1階オープン入出力室に設置してある日本語ラインプリンタ装置 (F 6 7 1 5 E 2) では、英大文字・英小文字及びカタカナ・カタカナ小文字が出力できませんが、このたび、文字セットを追加し、混在出力及びTTY端末からの入力文字 { } \ 等の文字出力が可能になりました。追加された文字セット識別名は次の通りです。

① ES10. . . 拡張EBCDICコード (カナ文字ベース+英小文字)

コード表は1. で示した

(d) INTERNAL (EXTENDED ALPHA) DEVICE (JISCI I I)

② EK10. . . 拡張EBCDICコード (英小文字ベース+カナ文字)

コード表は1. で示した

(e) INTERNAL (EXTENDED KANA) DEVICE (JISCI I I)

文字セット識別名は、TSS処理では"LPALLOC"コマンドの"CHARS"オペランドで指定し、バッチ処理では、出力DD文で"//. . . . DD SYSOUT=D,CHAR=文字セット識別名"と指定します。

使用例1. 文字セット識別名ES10を使用し、データセット (XXX. DATA) の内容を

"LIST"コマンドで日本語ラインプリンタ装置へ出力する。

```
READY
LPALLOC TSSLIST SYS(D) CHARS(ES10).
READY
LIST XXX.DATA SYS(D)
READY
FREE F(TSSLIST)
```

使用例2. 文字セット識別名EK10を使用し、データセット (XXX. DATA) の内容をバッチ処理で日本語ラインプリンタ装置へ出力する。

(ジョブ制御文例)

```
//F1234A JOB ,CLASS=A
// EXEC PSCOPY
//SYSUT1 DD DSN=F1234.XXX.DATA,DISP=SHR
//SYSUT2 DD SYSOUT=D,CHARS=EK10
//
```

~~~~~  
全国共同利用大型計算機センター広報物目次一覧

(1987年版)

~~~~~

1.	北海道大学センターニュース	183
2.	東北大学大型計算機センター広報	184
3.	東京大学大型計算機センターニュース	186
4.	名古屋大学大型計算機センターニュース	193
5.	京都大学大型計算機センター広報	195
6.	大阪大学大型計算機センターニュース	201
7.	九州大学大型計算機センター広報	206

1987 Vol. 19 No. 6

巻頭言	戸島	1
センターより		2
研究開発部長に就任して	三好 克彦	3
プログラミングシステムDEQSOLの紹介	中田 康則, 小柴 正則	7
DEQSOLの使用例		
-移流拡散方程式とMHD平衡問題への応用-	本間利久, 田中康博, 樋本昌則	24
「学術講演会」報告		38
多変量データの解析法について	佐藤 義治	39
回帰分析におけるデータと変数の吟味	芳賀 敏郎	43
統計プロシジャの今後の開発と展開	デビット・デロング	50
北海道大学大型計算機センター利用による研究成果(75)		59
〔付表1〕 所蔵雑誌一覧	図書資料室	60
〔付表2〕 テクニカル・レポート目次	研究開発部	62
〔付表3〕 北大センターのライブラリ・プログラム一覧	システム管理掛	63
〔付表4〕 アプリケーション・プログラム一覧	システム管理掛	69
〔付表5〕 「センターニュース」19巻の索引		70
〔付表6〕 「速報」索引		74

【東北大学大型計算機センター広報】

Vol. 20, No. 3 (1987-7)

巻頭言	宮崎 正俊	1
お知らせ		
ACOS 2000の導入について		3
「センター便り」より		5
ネットワークの素晴らしさ	長谷川 勝夫	12
人工衛星NOAA AVHRRデータの公開について	川村 宏, 松沢 茂, 鳥羽良明	17
続・計算機の速さくらべ	佐藤 裕之	30
画面エディタ向き多用途型パソコン端末用プログラム		
-機能性と利便性を重視して-	馬場 建造	35
ACOS 6 C言語利用の手引き	八木 直人	50

グラフィックライブラリー「COREシステム」を使ってみませんか 第3回

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	沢井清一、鈴木陽一	68
ソートの使い方・・・・・・・・・・・・・・・・	千葉実	89
プログラミングノート		
プログラム相談のイメージトレーニング・・・・・・・・	曾根秀昭	109
地区協コーナ		
大計センターと地区協連絡会との意見交換会の報告・・・・・・・・		117
報 告		
諸委員会報告・・・・・・・・・・・・・・・・		121
業 務 報 告・・・・・・・・・・・・・・・・		124
61年度業務報告・・・・・・・・・・・・・・・・		129

Vol. 20, No. 4 (1987-10)

巻 頭 言・・・・・・・・・・・・・・・・	笹川辰弥之	1
お 知 ら せ		
新システムACOS2000の運用について・・・・・・・・		3
負担金規程の一部改訂について・・・・・・・・		9
「センター便り」より・・・・・・・・		12
日英翻訳システムと大型計算機の有効利用について		
・・・・・・・・・・・・・・・・	荒木喬、三上秀秋、鎌田史隆、成瀬達雄	21
新しいワークステーションN5200モデル07WSの紹介・・・・・・・・	一 関 京 子	34
文献検索入門ガイド・・・・・・・・	曾 根 秀 昭	44
CORELIBでパネルルーチンが使える・・・・・・・・	沢井清一、曾根敏夫	52
ソートの使い方(2)・・・・・・・・	千 葉 実	59
ACOS 6 日本語処理入門・・・・・・・・	八 木 直 人	77
日本語文書の編集出力・・・・・・・・	中島聖勝、西 和彦、八木直人、小玉邦子	91
地区協コーナー		
ユーザーライブラリ端末用プログラムのコピーサービスについて・・・・・・・・		115
報 告		
諸委員会報告・・・・・・・・		118
業務報告・・・・・・・・		121
資 料		
ACOS-6/MVXマニュアル一覧・・・・・・・・		126

【東京大学大型計算機センターニュース】

Vol. 19 No. 1 (1987年1月)

巻 頭 言

年頭にあたって・・・・・・・・・・センター長 飯高 洋一・・・1
センターより
サービス休止等のお知らせ・・・・・・・・・・・・・3
オープンMTシステム機能追加のお知らせ・・・・・・・・・・4
割込みがきかない場合のTSSジョブのキャンセル方法・・・・・・・・5
無駄なファイルを抱えていませんか・・・・・・・・・・・・・6
SPSSXの利用者の方へ・・・・・・・・・・・・・7
第19回IAP研究会のお知らせ・・・・・・・・・・・・・8
本年度の計算機利用申請の取り扱い等について・・・・・・・・・・9
各大型計算機センターの申請種別計算機利用申請受付期間一覧・・・・・・・・10
昭和62年度継続利用申請について・・・・・・・・・・・・・11
ライブラリプログラムの新規登録のお知らせ・・・・・・・・・・12
昭和62年度センター付プログラム指導員の募集について・・・・・・・・16
MANUALコマンドでLBP出力できる「利用の手引」一覧・・・・・・・・18
センター発行「利用の手引」一覧・・・・・・・・・・・・・19
元岡記念賞が6人の若手研究者へ・・・・・・・・・・・・・20
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40(12月)・・・・・・・・21
12月のジョブ統計・・・・・・・・・・・・・22

ユーザより

第3回哲学者のためのテキスト・データベース研究会報告・・・・・・・・28

資 料

SAS新バージョン(Version5)のサービスについて・・・・・・・・35
PL/I31ビットアドレッシング機能の使い方・・・・・・・・46
新FORTRANの使い方(試用)・・・・・・・・・・・・・48
大型機(VOS3)上のtroff(欧文文書処理システム)の使い方・・・・・・・・52
BBS(電子掲示板システム)の使い方・・・・・・・・・・・・・58
FORTRANで図形処理をしてみませんか
-EKAKUユーティリティーの使い方(2)・・・・・・・・・・・・・66
エキスパート・システム構築ツールVAX OPS5の使い方(2)・・・・・・・・75

センターより

サービス休止等のお知らせ	1
工学文献データベースCOMPENDEXおよびE i ENGINEERINGS の学術情報センターへの移行について	2
昭和62年度計算機の新規・追加利用申請の取り扱いについて	3
利用者ロッカーの継続手続きについて	3
各大型計算機センターの申請種別計算機利用申請受付期間一覧	4
昭和62年度(前期)プログラムライブラリ開発計画の公募	5
ライブラリプログラムの新規登録のお知らせ	6
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40(1月)	9
1月のジョブ統計	10
昭和61年11~12月センター訪問者(視察・見学)	16
センターの人事異動	16

ユーザより

量子化学文献データベースQCLDBの更新について	17
--------------------------	----

資料

初心者のためのobjective-C-その概要と使い方	19
UNIXパークレ-新版(4.3BSD)について	29
VAX上のUtilisp	35
Unix-PC間のファイル交換のためのツール類	41
VAX/UNIXにおける日本語機能の使い方	45
新FORTRANのオプションについて	54
Fortranユーザの工具箱(2):アセンブラサブルーチン	62
FORTRANで図形処理をしてみませんか -EKAKUユーティリティーの使い方-(3)	78
エキスパート・システム構築ツールVAX OPS5の使い方(3)	89

パソコン端末

CP/M-86用端末化プログラム(PCTSS)のMS-DOS への対応について	99
--	----

Vol. 19 No. 3 (1987年3月)

センターより

サービス休止等のお知らせ	1
システム変更等のお知らせ	2
データセット機密保護コマンド等の変更について (TRUSTの運用開始)	4
学術情報センターの情報検索について	14
昭和62年度(前期)プログラムライブラリ開発計画の公募	16
ベッセル関数プログラムパッケージ (BESPACK) の拡充について	17
「センターニュース」総目次 (1986年分)	20
利用者ロッカーの継続手続きについて	25
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40 (2月)	26
2月のジョブ統計	27

ユーザより

「第2回非線型方程式のスーパーコンピュータによる数値解析」

研究会報告	33
-------	----

資料

ASNOP: 日線形最適化問題のためのアプリケーションシステム	35
結晶格子のデータベースと検索	42
日本語文書拡大出力用POSTERコマンドの使い方(4)	51

パソコン端末

FM16β用端末プログラム"iTerm"	64
----------------------	----

Vol. 19 No. 4 (1987年4月)

センターより

サービス休止等のお知らせ	1
システム変更等のお知らせ	2
4月からの工学文献データベース (COMPENDEX, Ei ENGINEERING MEETINGS) および、学術雑誌総合目録欧文編データベース (TOOL-ULP) の利用について	5
各種講習会のお知らせ	7
研究会の公募について	9
利用者ロッカーの整理について	10
FORTRANの移行に伴うライブラリの使用について	11

IMS Lプログラムライブラリパッケージの公開について	16
昭和62年度センター付プログラム指導員専門分野別スケジュール表	17
プログラム相談室の利用について	19
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40(3月)	20
3月のジョブ統計	21
昭和62年1月~2月センター訪問者(視察・見学)	27
ユーザより	
電子メールシステムについての提言	28
資料	
FORTRANの新コンパイラについて	29
Common Loopsについて	40
ライブラリリスト	45

Vol. 19 No. 5 (1987年5月)

巻頭言

センター長就任にあたって	後藤英一	1
--------------	------	---

センターより

サービス休止等のお知らせ	2
システム変更等のお知らせ	3
副システム(VAX8600)のサービスについて	9
各種講習会のお知らせ	14
ライブラリプログラム新規登録のお知らせ	16
ベッセル関数プログラムパッケージ(BESPACK)の拡充について	20
昭和62年度文部省科学研究費補助金による計算機利用申請等の取り扱いについて	21
昭和62年度連絡所付プログラム指導員名簿	22
昭和62年度センター付プログラム指導員専門分野別スケジュール表	23
センターで整備したUNIXコマンド	25
VOS3 & UNIX関係の外部発行マニュアルと書籍	26
VOS3関係の日立発行マニュアル一覧	29
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40(4月)	33
4月のジョブ統計	34
センターの人事異動	40
昭和62年3月センター訪問者(視察・見学)	41

資 料

新FORTRANのオプション（標準値）について・・・42
パスワード変更，データセットのアクセス権変更のための
 TRUSTコマンドの使い方・・・49
初めてセンターシステムを使われる方へ・・・60
数式処理の現状と応用・・・72
NEATコマンドの紹介—テキストデータの節約LBP出力—・・・76
UNIXのtroff/plot/LaTeXのレーザプリンタ出力法・・・85

パソコン端末

PC-9801シリーズ用MS-Kermitの改良・・・92

Vol. 19 No. 6 (1987年6月)

センターより

サービス休止等のお知らせ・・・1
システム変更等のお知らせ・・・2
DRUNOFFの新機能について・・・5
第5回テキスト・データベース研究会（JACH）のお知らせ・・・14
利用者旅費制度について・・・15
昭和62年度（後期）プログラムライブラリ開発計画の公募・・・16
昭和62年度（前期）プログラムライブラリ開発計画・・・17
新FORTRANの移行に伴うライブラリプログラムの使用について・・・18
新・旧FORTRANコンパイラの実行速度による比較（その2）・・・19
昭和62年度文部省科学研究費補助金による計算機利用申請等の取り扱いについて・・・22
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40（5月）・・・23
5月のジョブ件数・・・24

資 料

ファイルのやさしい使い方・・・30
日立知識システム知識処理言語VOS 3 LISP, PROLOGの紹介・・・41

パソコン端末

PC-9801を端末機にするプログラム"AKI"—図形編集機能付き—・・・45
PC-9800シリーズ用端末プログラム"MYTSS"
 —画面編集，ファイル転送，大容量受信バッファ，9600ボー対応—・・・57

センターより

サービス休止等のお知らせ	1
システム変更等のお知らせ	2
各種講習会のお知らせ	8
外国人留学生によるプログラム指導員の募集について	9
ライブラリコマンドLSOURCE, LSHOWの変更及びMPLコマンドの 中止に伴うMPLSUTの使用法について	10
ライブラリプログラム新登録のお知らせ	12
プログラムライブラリIMSLの使用法ドキュメントの出力について	13
N-1ネットワークの機能拡張について	16
九州大学大型計算機センターとの間のネットワーク利用料金の 無料化について	18
言語研究のためのテキスト・データベース研究会	18
研究会の公募について	19
昭和62年度後期センター付プログラム指導員の募集について	21
昭和62年度後期プログラムライブラリ開発計画の公募	23
センターで整備したUNIXコマンド	24
東京大学大型計算機センタープログラムライブラリ内規の改正について	25
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40(6・7月)	39
6・7月のジョブ統計	41
昭和62年4月～6月センター訪問者	48

資 料

国際電子メール(CSNET経由)の暫定サービス開始について	49
HITACS-810効率の良い使用法(1)	56
VAX上のUtilispその後	69
OCR:Kurzwel4000の機能と評価	74

パソコン端末

TSS端末としてのパソコン活用法	82
最近のパソコン端末化ソフトウェア(市販品)	86

Vol. 19 No. 9・10 (1987年10月)

センターより

サービス休止等のお知らせ	1
システム変更等のお知らせ	2
プログラムライブラリMATRIX/HAPのバージョンアップのお知らせ	3
ライブラリプログラムの新規登録のお知らせ	5
日立製roff(eroff)の機能強化	9
DDX-TPサービスによるTSS利用時の電話番号変更のお知らせ	12
東北大学大型計算機センターとの間のネットワーク利用料金の無料化について	13
V. 22, V. 22bisモデムについて	14
利用者旅費による出張計画書の提出について	17
第3回非線形方程式のスーパーコンピュータによる数値解析研究会のお知らせ	19
第1回数値情報環境ワークショップ講演発表募集	20
外国人プログラム指導員の配置について	21
センター付プログラム指導員の募集について	22
昭和62年度(後期)ライブラリプログラム開発計画	24
月間ジョブ件数から見た連絡所ベスト40(8・9月)	26
8・9月のジョブ統計	28
昭和62年7月～8月センター訪問者(視察・見学)	35

ユーザより

コマンド登録のお知らせ	36
-------------	----

資料

NCARLライブラリーいくつかの補間法	37
HITACS-810効率の良い使用法(2)	52
OCPの公開に当たって	72
文章解析プログラムOCPの使い方	76

Vol. 19 No. 11 (1987年11月)

センターより

サービス休止等のお知らせ	1
システム変更等のお知らせ	2
「VOS3コマンドマニュアル第4版」発行について	4
第20回IAP研究会のお知らせ	7

第6回テキスト・データベース研究会 (JACH) のお知らせ	8
第1回数値情報環境ワークショップ講演会のお知らせ	9
第1回グラフィックス研究会のお知らせ	10
月間ジョブ件数から見た連絡所ベスト40 (10月)	11
10月のジョブ統計	17
昭和62年9月センター訪問者	18

資料

JUNETの紹介とアドレスの表記法	19
最適化Pascal (opascal) について	22
VOS3用清書プログラム (DRUNOFFおよびRUNOFF) のバージョンアップについて	24
ワークステーションにおける業界標準技術 X-Window・NFSの概要と使い方	35
ライブラリ・リスト	39

【名古屋大学大型計算機センターニュース】

Vol. 18, No. 3 (1987年8月)

論 壇

科学と神様	垣谷俊昭	199
-------	------	-----

センターより

お知らせ	201
------	-----

報 告

1. 昭和61年度名古屋大学大型計算機センターの決算	217
2. 各委員会経過	217
3. 講習会開催	218
4. 業務報告	219

解 説

1. 物理学関係プレプリント検索システムDPNUについて 乙藤岳志, 戸床トシ子	227
2. Portable Common loops について	233

3. Smalltalkを使ってみませんか?	長谷川明生	238
投 稿		
UNIX系のコマンドを大型計算機で!	城戸滋之	257
利用者向け講座		
UNIX入門 (その2)	長谷川明生	263
利用者の声		
センターに寄せられた質問・要望・コメントから		271
附 表		
1. ライブラリー・プログラム一覧表		273
2. ライブラリー・データ一覧表		289
編集後記		292

Vol. 18, No. 4 (1987年11月)

論 壇		
コンピュータと法学	稲子垣夫	293
センターより		
お知らせ		295
報 告		
1. 昭和62年度ライブラリー・プログラム開発課題 (追加)		330
2. 各委員会経過		330
3. 講習会等開催		330
4. 業務報告		331
解 説		
1. 新システムについて—運用面から見て—	浦部達夫	335
2. 最近の言語事情についてももの申す	岡部直木	349
投 稿		
続計算機雑記帳	龍岡亮二	372
利用者向け講座		
UNIX入門 (その3)	長谷川明生	379
附 表		
1. TSS端末機器一覧		389
2. カタログド・プロシジャー一覧表		397

3. コマンド・プロシジャ一覧表	403
索引	408
編集後記	413

【京都大学大型計算機センター広報】

Vol. 20, No. 1, 1987 (2月)

巻頭言

情報伝達と処理の融合・・・・・・・・・・長谷川 利治・・1

センターより

<運用関係>

昭和62年度利用申請の受付について	2
V.22 bis規格モデムによるサービスについて	2
電子ファイリング・システムELFの運用開始について	2
各大型計算機センター利用申請受付期間一覧	3
データベースINSPEC(69年~78年版)の運用について	3
開発計画(昭和62年度前期)の募集について	3

<システム関係>

大型タブレット装置使用方法の変更について	5
エラーメッセージの説明の端末出力について	5
コマンド・プロシジャの新設とパラメータの追加	5

解説

SASによる階層的クラスター分析—新手法を中心として—	金子 治平, 瀧 敦弘	7
日英翻訳システムATLAS-II(1)—ATLAS-IIの利用に際して—	三好 節子, 寺島 広次, 渡辺 豊英	17
エキスパートシステム構築ソフトウェアESHELL(2)—エキスパート・システム開発例—	山本 伸幸, 渡辺 豊英	29

利用者のページ

パケット網利用下における図形出力の留意点 淡路 敏之, 戸田 孝 . . . 4 2

第18回研究セミナー報告 4 4

第12回VPユーザセミナー報告 4 5

第13回VPユーザセミナー報告 4 6

第27回グラフィックス・セミナー報告 4 7

第28回グラフィックス・セミナー報告 4 8

第2回ワークステーション・セミナー報告 4 9

第1回ワークステーション説明会報告 5 0

報 告

事務報告 5 1

京都大学大型計算機センターシステム変更報告 5 3

編集後記 5 4

Vol. 20 No. 2, 1987 (4月)

巻 頭 言

計算機の高度利用へむけて 長尾 真 . . . 5 5

センターより

<運用関係>

主システム増強計画の第2次分について 5 6

運用時間帯の変更について 5 6

共用ファイル利用制限値の緩和について 5 7

画像処理システム (FIVIS) の運用について 5 7

データベース・ガイドシステムGDSの運用について 5 7

昭和62年度プログラム相談について 5 8

利用の手引きについて 6 0

PRIMERサービスについて 6 1

<システム関係>

ESHELLのレベルアップについて 6 3

SASの旧版廃止とバージョン5の制限事項	63
EDITの新しいサブコマンドについて	63
プロシジャの新設	64
解 説	
ライン・エディティングについて	金澤 正憲 65
共用データベースのガイド・システム-GDSのガイダンス機能	小澤 義明, 渡辺 豊英 70
SASによる非階層的クラスター分析と規準化の効果	金子 治平, 瀧 敦弘 75
研究・開発のページ	
ライブラリ・プログラムの紹介(74)	
-CCP5プログラム・ライブラリ(VP版)の追加-	片岡 洋右 84
利用者のページ	
「ワークステーションに関する利用者アンケート」集計報告	87
第2回京都大学大型計算機センター研究開発部研究発表会報告	91
第29回グラフィックス・セミナー報告	92
第3回ワークステーション・セミナー報告	93
報 告	
事務報告	94
資 料	
図書資料室案内	96
ジョブ種別一覧	102
利用負担金の算定方式	103
共用データベース一覧	104
編集後記	107

センターより

<運用関係>

主システムの置換えに伴うサービス休止について	109
MSS (大容量記憶装置) の撤去について	109
大型タブレット入力装置の置換えについて	109
プログラミング言語Cの運用について	109
プログラミング言語PROLOG (DEC-10仕様) の運用について	110
NLPへの縮刷用ユーティリティCOMPACTの運用について	110
電子回路解析プログラムPSPICE, 線形計画法プログラムSCICONICの運用について	110
データベースMOUDISの運用開始について	111
データベースINSPECの検索結果のNLPへの出力について	111
開発計画 (昭和62年度前期) 一覧	111
プログラム指導員の募集について	113
学術情報センターの情報検索サービスの開始について	114

<システム関係>

出力結果の連絡所送り指定 (MAIL) の変更について	115
EBCDIC (ASCII) コードの運用と移行	115
COBOL 85への移行について	116
SASバージョン5の障害について	116
IDEASのバージョン・アップについて	116
コマンド/プロシジャの新設	116

解 説

OSIV4 MSPにおけるC言語	高見 好雄, 平野 彰雄	119
DEC10-PROLOG仕様に準拠したPROLOG		
-OSIV/F4 MSP下での利用方法を中心に-	四方 敏明, 平野 彰雄	128
COBOL 85とJIS-COBOLの非互換項目について	徳平 省一	135
山地災害対策, 環境保全のためのデータベースMOUDIS	小橋 澄治	138
日英翻訳システムATLAS-II(2)	三好 節子, 寺嶋 広次, 大西 淳	146
画像情報システムFIVISの紹介(1)-ハードウェア/ソフトウェアの構成-		
	飯田 記子, 寺嶋 広次	159

ODYSSEY入門(1) 高井 孝之 . . 164

研究・開発のページ

ライブラリ・プログラムの紹介 (75)

— 2次元水溶液の分子動力学シミュレーション・プログラム— . . 片岡 洋右 . . 178

利用者のページ

第2回ワークステーション説明会報告 180

報 告

事務報告 181

京都大学大型計算機センター協議員, 運営委員および業務常任委員 183

昭和61年度利用状況 184

編集後記 190

Vol. 20, No. 4, 1987 (8月)

センターより

<運用関係>

新しい主システムの構成について 191

共用ファイルの追加利用申請について 191

利用負担金の変更について 191

計算機専用デジタル交換機への接続申請の今後の取扱いについて 192

大型計算機センター間のネットワーク課金について 192

開発計画 (昭和62年度後期) の募集について 193

新任プログラム指導員の紹介 193

<システム関係>

IDEASによるタンパク質結晶構造データバンクの検索について 194

英文清書システムATFのレベルアップについて 194

コマンド・プロシジャの新設 195

解 説

画像情報システム F I V I S の紹介(2)ー初めて利用する場合にー

・・・・・・飯田 記子, 寺嶋 広次・・196

研究・開発のページ

ライブラリ・プログラムの紹介(76)ー粒子コードを高速化するVP用サブルーチンー

・・・・・・大村 善治, 松本 紘・・206

談 話 室

航技研視察記・・・・・・・・・・・・・・・・・・高井 孝之, 島崎 眞昭・・213

利用者のページ

SUG I - J に参加して・・・・・・・・・・・・・・・・・・高井 孝之・・217

センター利用による研究成果

ー昭和61年度計算機利用結果報告書添付資料からー・・・・・・・・・・218

報 告

事務報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・227

昭和61年度京都大学大型計算機センター決算報告・・・・・・・・・・229

資 料

利用負担金の算定方式・・・・・・・・・・・・・・・・・・230

主システム構成図・・・・・・・・・・・・・・・・・・231

ライブラリ・プログラムおよび言語一覧・・・・・・・・・・233

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・244

Vol. 20, NO. 5, 1987 (10月)

センターより

<運用関係>

ベクトル・プロセッサVP-400E新設に伴うサービス休止について・・・・・・・・245

運用時間の延長について・・・・・・・・・・・・・・・・・・245

<システム関係>

VPジョブの利用について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 246

データベースIDEASのマニュアル出力について・・・・・・・・・・ 246

RJ Eユーザ・サービスのサブコマンドの機能追加等について・・・・・・・・・・ 247

DSL I S TおよびCATL I S Tの機能追加について・・・・・・・・・・ 247

SSL II及びSSL II/V Pの一部障害について・・・・・・・・・・ 247

標準入出力コード系移行の延期について・・・・・・・・・・ 248

解 説

VP-400Eについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・島崎 眞昭・・ 250

画像情報システムF I V I Sの紹介(3) -二値処理とロギング機能-
 ・・・・・・・・・・飯田 記子, 寺嶋 広次・・ 265

利用者のページ

パソコンTSSでのPFD, ASPEN, PREVIEWの併用・・戸田 孝・・ 271

報 告

事務報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 276

資 料

カタログド・プロシジャー一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 278

コマンドプロシジャー一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 286

編集後期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 292

【大阪大学大型計算機センターニュース】

Vo1. 16 No. 4 1987-2

センターだより

昭和62年度研究開発計画の公募について・・・・・・・・・・ 1

昭和62年度プログラム相談員の募集について・・・・・・・・・・ 2

アプリケーションプログラム半経験的分子軌道法プログラム
 (MND OC) の新規登録について・・・・・・・・・・ 3

大型計算機利用に伴う利用者旅費について	5
昭和61年度下半期プログラム相談室の担当表	6
昭和61年度プログラム指導員について	6

報 告

センター日誌	11
昭和61年度計算機稼動状況	14

資 料

BITNET (Because It's Time NETwork) の紹介	23
Cで書いたPC9801用TSSターミナルプログラム	29
当センターからサービスしているデータベースについて	41
研究開発の成果	
二次元及び軸対称剛塑性問題解析有限要素法プログラムの利用について	69
半経験的分子軌道法MNDOCの改良と整備	83

附 表

「速報」掲載一覧	101
昭和61年度センターニュース総目次	102
広報索引一覧	106
他センター「センターニュース(広報)」掲載一覧	118
センター刊行物一覧	127
ACOS-6及びSXマニュアル一覧	129

Vol. 17 No. 1 1987-5

巻頭言

センター長退任にあたって	1
センター長就任にあたって	2

センターだより

昭和62年度研究開発計画の公募について	4
大型計算機利用に伴う利用者旅費について	5

昭和62年度上半期プログラム相談室の担当表	6
昭和62年度プログラム指導員について	8
図書資料室利用の心得	11

報 告

センター日誌	12
昭和61年度計算機稼動状況	14

電子メールとネットワーク特集

私立大学間計算機ネットワーク-PUNnet	23
広域計算機ネットワーク・JUNETについて	35

資 料

第3回SXプログラミング研究会

スーパーコンピュータを用いた境界要素計算による三次元き裂同定	47
研究室紹介 -基礎工学部 笛野研究室-	61
知識情報処理言語PROLOG (その4)	65
最近の円周率計算	73

附 表

「速報」掲載一覧	85
広報索引一覧	87
他センター「ニュース (広報)」掲載一覧	100
センター刊行物一覧	108
ACOS-6及びSXマニュアル一覧	110

V o l . 1 7 N O . 2 1 9 8 7 - 8

センターだより

16ビット・コンピュータ・ワードのビット操作	1
結晶解析ユニバーサルプログラムのなかのHBL S-Vの改訂について	4
昭和62年度研究開発計画の公募について	5
昭和62年度下半期プログラム相談員の募集について	6

大型計算機利用に伴う利用者旅費について	7
昭和62年度上半期プログラム相談室の担当表	8
昭和62年度プログラム指導員について	10

報 告

センター日誌	12
昭和62年度計算機稼動状況	14

経済経営学特集

経済学とコンピューター	23
意思決定支援システムの生成と展開	31
経済学における計量分析用パッケージについて	41
生命保険最適組合わせエキスパート・システム	47

資 料

研究開発 (S X)

スーパーコンピュータと原子核殻模型計算	63
原子核構造の理論的計算におけるベクトル化の試み	75
ベクトル計算機による乱流の数値シミュレーション	83
電気化学データベース	95
X線結晶解析のための最小二乗法プログラムHBL S-Vの改訂について	101
T S S端末からのSP S S Xの利用—データ入力とプログラムの実行—	113

研究室紹介

キーボードから100km先のCPU	129
手書きOCR (光学文字読取) 装置の利用について	133

附 表

「速報」掲載一覧	163
他センター「ニュース (広報)」掲載一覧	164
センター刊行物一覧	173
ACOS-6及びS Xマニュアル一覧	176

センターだより

昭和62年度下半期プログラム相談室の担当表 1
昭和62年度下半期プログラム指導員について 3
大型計算機利用に伴う利用者旅費について 5
センター・ニュース (スーパーコンピュータのプログラミング特集号) の原稿募集について
. 6

報告

センター日誌 7
昭和62年度計算機稼動状況 10

コンピュータ・セキュリティ特集

コンピュータ・セキュリティ 萬代 三郎 21
暗号について 藤原 融 43
ACOS-6MVXセキュリティについて 海老野征雄, 橋本 敏昭 51

資料

電気化学データベースの利用手引書について 仁木 克巳, 磯本 征雄 63
研究開発 (SX) 報告 柳瀬 章 81

附表

「速報」及び「お知らせ」掲載一覧 85
他センター「ニュース (広報)」掲載一覧 86
センター刊行物一覧 93
ACOS-6及びSXマニュアル一覧 96

【九州大学大型計算機センター広報】

Vol. 20 No. 1 1987

解 説

BIOSISデータベース・システム	多喜正城	1
プログラムのページ		
ホスト (FACOM M-180, 200, 382) と TTY 手順端末間でのファイル転送Ⅱ	長谷部信行・吉井尚・古金卯太郎	25

相談室だより

昭和61年度前期プログラム相談票のまとめ	30
昭和61年度九州大学大型計算機センタープログラム相談員名簿	31
昭和61年度連絡所付きプログラム相談員名簿	32

報 告

お知らせ	33
講習会報告	54
センター日誌	58
業務報告	60
九州大学大型計算機使用研究課題一覧	79

資 料

コンプリート形式プログラム使用頻度調査	85
サブルーチン形式プログラム使用頻度調査	89
データベース利用状況	99
TSS端末一覧	100
Vol. 19総目次	108
編集後記	109

Vol. 20 No. 2 1987

研究開発

BASIC コンパイラによる高速 TSS 端末エミュレータプログラム	武政尹士	111
------------------------------------	------	-----

報 告

お知らせ	123
------	-----

センター日誌	132
業務報告	133
九州大学大型計算機使用研究課題一覧	140
編集後記	141

Vol. 20 No. 3 1987

解 説

自動翻訳システムATLASの使用について

森田洋子, 平野広幸, 菅崎直弘, 柳池定, 垣内良子, 矢次恵美子, 武富敬	143
---	-----

研究開発

日本語対応TSSグラフィック端末プログラム	平良豊	183
C言語による日本語TSS端末エミュレータ	武政尹士	193
情報検索システムAIRの改訂について	篠原武, 二村祥一, 松尾文碩	211

相談室だより

昭和61年度後期プログラム相談票のまとめ	239
九州大学大型計算機センタープログラム相談員名簿	240
連絡所付きプログラム相談員名簿	242

報 告

お知らせ	243
センター日誌	251
業務報告	252
九州大学大型計算機使用研究課題一覧	259

資 料

端局一覧	261
コンプライト形式プログラム使用頻度調査	277
サブルーチン形式プログラム使用頻度調査	281
データベース利用状況	291

編集後記	292
------	-----

Vol. 20 No. 4 1987

解 説

ASCIIとEBCDIC	松尾文碩	293
C言語の使用法	二村祥一, 平野広幸, 柳池定, 菅野直弘	308

報 告

お知らせ		319
講習会報告		331
センター日誌		333
業務報告		334
九州大学大型計算機使用研究課題一覧		344
各種委員会委員名簿		348

資 料

ソフトウェア一覧		350
マニュアル一覧		383

編集後記		387
------	--	-----

Vol. 20 No. 5 1987

解 説

FACOM M-780上のUTS—世界最高速のUNIX—	松尾文碩	389
UTSの使用法	松延栄治	398
UTSのシェルとファイルシステム	松延栄治	407
UTSのエディタ	松尾文碩	424
UTSの言語プロセッサとプログラムライブラリ	二村祥一	441
UTSの日本語処理機能	二村祥一	450
UTS—MSP間ファイル転送	二村祥一	453
UTSのコマンド一覧	松延栄治	458

研究開発

TTY無手順端末による自動翻訳システムATLAS IIの利用	平良豊	463
--------------------------------	-----	-----

報 告

お知らせ		475
センター日誌		485

業務報告	486
九州大学大型計算機使用研究課題一覧	496
編集後記	499

Vol. 20 No. 6 1987

研究開発

PROPATH: 熱物性値プログラム・パッケージ第4・1版 伊藤猛宏, 加藤泰生, 黒木虎人, 茂地徹, 高田保之, 本田知宏, 増岡隆士, 松本健一, 宮本政英, 安田嘉明, 山下宏幸, 吉岡啓介	501
テキストデータベース管理システムSIGMA第2版について 有川節夫, 篠原武, 武谷峻一, 大島一彦, 原口誠, 白石修二, 酒井浩, 宮原哲浩, 山本章博, 井上仁, 川崎洋二, 湯浅寛子	517
テキストデータベース「トーマス・マン・ファイル」の完成と再編成について 樋口忠治, 篠原武	582
SIGMAによる公用データベース昆虫学データベース(KONCHU)の公開とその利用法 多田内修	597

相談室だより

昭和62年度前期プログラム相談票のまとめ	615
九州大学大型計算機センタープログラム相談員名簿	616
連絡所付きプログラム相談員名簿	618

報告

お知らせ	619
センター日誌	634
業務報告	635
九州大学大型計算機使用研究課題一乱	645

資料

コンプリート形式プログラム使用頻度調査	647
サブルーチン形式プログラム使用頻度調査	651
データベース利用状況	661

編集後記	662
------	-----

~~~~~  
大型計算機センター データベース一覧  
~~~~~

北海道大学大型計算機センター
東北大学大型計算機センター
東京大学大型計算機センター
名古屋大学大型計算機センター
京都大学大型計算機センター
大阪大学大型計算機センター
九州大学大型計算機センター
学術情報センター

全国共同利用大型計算機センター データベース連絡会

オンライン・データベース利用ガイド (第7版) より抜粋

北海道大学大型計算機センター

060 札幌市北区北11条西5丁目
代表電話 011-716-2111

1. サービスしているデータベース

略 称	データベースの内容・データ	データ量	説明書	問い合わせ先
ALGO	アルゴリズム情報データベース 計算アルゴリズムに関する情報	3000件	コンピュータ 16.2	センター千葉(2947) 持田(2948)
AIRIS	情報学文献情報データベース 人工知能・情報検索の文献情報	3700件	17.4	北大工学部工業数学 前田(6715)
ALTS	農業経済長期統計データベース 都道府県別米累年統計、全国市町村別米 累年統計、畜産統計、北海道農業累年統 計、野菜卸売市場統計、地域気象観測 データ	15系列	17.5	帯広畜大畜産経営 長南、阿部、伊藤 (0155-48-5111) 北大農学部農業経済 土井(2459)
COGBASE	認知科学データベース 認知心理学、言語学、人工知能等の研究 論文、テクニカルレポート、学会発表抄 録、単行本等の文献情報	381件	16.4	北大文学部行動科学 相場(3033) 田山、金子
FRM	強誘電体文献録(豊田ビブリオグラフィ) 強誘電体および関連物質の物性、応用に 関する文献(1920年以降)	39000件	18.2	北大理学部物理 塩崎(3558)
HEAD	経済・経営データベース 日経NEEDSの日経総合ファイル、法 人企業統計データ、金融データ、消費統 計データの時系列データ	40000件	18.3	北大経済学部 関口(2778) 嶺野(3988)
HGEN	遺伝情報のデータベース Gen Bankライブラリ(Gen Bank Database :英国Los Almos National Laboratory) の文献および塩基配列データ	13774文献 10913エントリ 10961365 塩基	17.2	北大理学部化学第二 飯田(3510,3588)
MEDRAD	放射線医療データベース 放射線科で扱う症例の臨床データ、病名、 解剖学的部位名等のコードファイル	145000件	17.4	北大医学部放射線 伊藤(5978) 辻井、入江
NRDF	荷電粒子核反応データファイル 日本国内で生産された荷電粒子を入射粒 子とする核反応実験データ	66000件	16.3	北大理学部物理 田中(2684) 加藤(3518)
QCLDB	量子化学文献データベース 分子波動関数の非経験的計算に関する文 献の書誌情報、分子名、計算法、基底関 数、分子の性質等を収集	8500件	16.3	北大理学部化学第二 大野(3502) 田中(3512) 富樫
RRR	道路工学研究者のための雑録データベース	2MB	18.2	北大工学部土木工学 上島(6202)
SESS	ソ連経済統計データベース ソ連経済に関する時系列データ	1600件	19.2	北大スラブ研究センター 田畑(3797)
ANGEL	自動設計学術文献データベース 幾何形状理論に関する文献情報	5000件	19.4	北大工学部精密工学 斉藤(6446)

東北大学大型計算機センター

〒980 仙台市片平2丁目1番1号
代表電話 (022) 227-6200

1. サービスしているデータベース

データベース	データベースの内容	データ数	呼び出し** コマンド	利用説明書	問い合わせ先
METADEX	金属の科学、技術、工学に関する文献データ、書誌事項、キーワード、抄録(1979年移行) (米国金属学会と英国金属学会が共同発行)	約3.2万文献/年 1979年分以降約50万件	UNIQ	・METADEXのオンライン検索サービスの利用法 SENAC Vol.13, No.4 ・METADEXのオンライン検索サービスの利用法2 SENAC Vol.14, No.1 ・UNIQ-1の使い方	東北大学大型計算機センター研究開発部 データベース担当 022-221-3380 東北大学金属材料研究所松井秀樹助教授 022-227-6200(2454)
C-13NMR (SPIRES)	有機化合物の炭素核磁気共鳴スペクトルおよび構造式に関するデータ (NIH/EAP*提供)	1500データ	RDB SPIRES	・C ¹³ NMRスペクトル検索システム ・SPIRES使用説明書 - C-13NMRデータ検索システム-	豊橋技術科学大学 分析計測センター 阿部英次助教授 0532-47-0111(773)
KIPER	電気化学の分野における電極反応の速度論的パラメータに関する研究 (研究室収集)	2000データ	RDB KIPER	・準備中	東北大学理学部化学科鈴木研究室 022-222-1800(3361)
MAB	UNESCO「人間の生物圏」計画(Man and the Biosphere Programme)の事業、研究に関する情報 (研究室収集)	973データ	RDB MAB	・MAB Information Systemの概要と使用法	東北大学理学部生物薬原研究室 022-222-1800(3470)
PROTEIN-DB	たんぱく質のアミノ酸配列および立体構造に関するデータ (大阪大学蛋白質研究所附属結晶解析研究センター)	347データ	PROTEIN-DB	・たんぱく質データベース エンドユーザ言語説明書	東北大学理学部化学第二学科生物有機化学講座 菊池康夫 022-222-1800(3382)
CORMEC	金属錯体の錯形成反応に関する速度定数、平衡定数、配位子の解離定数・名称、文献などのデータ (研究室収集)	1277件	・TRACIS	・TRACISを呼びだすと案内する ・CORMEC-APCOR使用説明書 ・COORD説明書	東北大学理学部化学科鈴木研究室 022-222-1800(3361)
ELDOL	電気化学の分野で基礎的な量である電気二重層に関するデータ (研究室収集)	166件	・TRACIS	・TRACISを呼びだすと案内する ・COORD説明書	東北大学理学部化学科鈴木研究室 022-222-1800(3361)
SEDATA	溶媒抽出平衡に関する数値データおよびそれに関連する文献データ (研究室収集)	4087件	COORD	・溶媒抽出に関するデータベース“SEDATA” SENAC Vol.17, No.1	東北大学理学部化学科鈴木研究室 022-222-1800(3361)
MEALS	四訂日本食品成分表およびアミノ酸組成表(科学技術庁資源調査会編)	1937件	COORD	・四訂日本食品標準成分表に基づくデータベースの紹介 SENAC Vol.17, No.3	東北大学医学部衛生学教室 中塚晴夫 022-274-1111(2184)
QCLDB	非経験的分子軌道法計算による有機・無機化合物の電子及び核構造に関するデータ (分子科学計算センター収集)	9600件	QCLDB	・量子化学文献データベース“QCLDB”の利用 SENAC Vol.18, No.3	東北大学理学部化学第二学科 藤村勇一 022-222-1800(3386)

* NIH: National Institutes of Health, EAP: Environmental Protection Agency.

** システム選択レベル(SYSTEM?), ヒルドモード(?)などで人力可能

東京大学大型計算機センター

〔113〕東京都文京区弥生二丁目11番16号

代表電話(03)812-2111

1. データベースの種類およびマニュアル

1.1 センター提供データベース

データベース名 (コマンド名)	データの内容および原作者	オンライン化されているデータ量	データ更新 サイクル
CAS	化学に関する文献情報(論文、特許、出版物の 書誌事項、キーワード、化学物質索引等)。 米国化学会 Chemical Abstracts Service 発行 のCA search。	1979年7月以降 363.1万件 45万件/年	2週間
MOL	データベースCASで使用されている化学物質 名と化学物質登録番号との対応辞書。 東大大型計算機センター作成。	244万件	1年
XDC	結晶構造解析に関する文献情報および数値デー タ。 英国ケンブリッジ大学結晶データセンター発行 のデータベース。	5.0万件	1年
IEE	計測・制御工学に関する文献情報(論文等の 書誌事項および要旨)。 英国 Institution of Electrical Engineers 発行のINSPEC-1C。	1980年以降 35.1万件 5万件/年	1カ月

マニュアル:

小澤 宏、山崎 昶:「情報検索システムTOOL-IR/ORIONのやさしい使い方(第2版)」、
データベース・マニュアル12、1987年10月。

1. 2 利用者提供データベース

データベース名 (コマンド名)	データの内容・機能	提供者 (連絡先)	マニュアル
PDB	蛋白質構造データバンク。 蛋白質結晶の原子座標データ。 Brookhaven国立研究所作成。	東大・理・化学 田隅三生	センターニュース、 1983年7月号、92頁。
CHMGRM	化学の論理のためのプログラム・パッケージ CHEMOGRAM。 有機化合物の立体構造計算、および気体ラジカル反応の検索・推算。	東海大・開技研 東大名誉教授 米田幸夫	センターニュース、 1983年4月号、57頁。 データベース・マ ニュアル2。
EROICA	有機化合物基礎物性推算システム。 有機化合物の物性実測値、および物性推算のためのデータ。	東海大・開技研 東大名誉教授 米田幸夫	センターニュース、 1982年11月号、 119頁。
KWADIRS	建築設計・研究情報検索システム。 日本建築学会大会梗概集・論文集に記載された講演・論文の書誌事項。	共栄学園短大 湯本長伯	センターニュース、 1983年1・2月号、 26頁。
NAGARE	流体力学文献データベース。 Journal of Fluid Mechanics他の流体力学関係雑誌に記載された論文の書誌事項。	東大名誉教授 橋本英典 (東大・理・物理 木村芳文)	センターニュース、 1983年11月号、 102頁。
SYMPC	化学関連学会講演要旨集データベース。 錯塩化学、情報化学等の討論会要旨集に記載された講演の書誌事項。	電通大・応用化学 山崎 和	センターニュース、 1983年8月号、41頁。
NUCDB	核酸塩基配列データベース。 EMBL、GenBank および NBRFNUC ファイルを原データとする核酸の一次構造。	東大名誉教授 内田久雄 (東大・大計セ 小澤 宏)	センターニュース、 1986年1月号、93頁。
ICDB	集積回路データベース。 主な集積回路の機能、ピン数、ピン配置など。	千葉大・工・電子 池田宏明	データベース・マ ニュアル7。

XDCUTL	データベースXDC関係ユーティリティ・プログラム・パッケージ。	東大・薬 飯高洋一	センターニュース、 1983年12月号、69頁； 1987年3月号、42頁。
PSDB	蛋白質アミノ酸配列データベース。 NBRF および PGtrans ファイルを原データとする蛋白質の一次構造。	東大・大計セ 小澤 宏	センターニュース、 1986年1月号、93頁。
QCLDB	量子化学文献データベース。 ab initio 法による原子・分子の電子状態計算に関する論文の書誌事項。	北大・理 大野公男 (東大・理・化学 小杉信博)	センターニュース、 1986年10月号、92頁； 1987年2月号、17頁。
IDEAS	核酸・蛋白質配列解析システム。 EMBL、GenBank、NBRFNUC、NBRF ファイルのホモロジーサーチなど。	京大・化研 金久 實	センターニュース、 1986年10月号、98頁。

2. 利用案内

2.1 利用手続き

当センターから利用者番号を受けたユーザであれば、データベース利用のための特別な手続きなしに、すべてのデータベースを使用できる。ただし、電話網TSS端末を新たに設置した場合は、端末設置責任者は「交換回線形端末設置申請書」を提出し、端末番号の指定を受ける必要がある。

2.2 電話網TSSサービスの時間帯

曜日	時間	備考
月～金	9:30～22:00	毎月末日(ただし当日が土曜日または日曜日のときは直前の金曜日)は14:00まで
土	9:30～18:00	

名古屋大学大型計算機センター
 〒464 名古屋市千種区不老町
 電話 (052) 781-5111

1. 1 文献データベース一覧

データベース名	データベースの内容	件数	資料	連絡先
NUMERICL	数値解析に関する文献	10151	利用の手引 データベース編	工学部情報 検索学講座
OPTIMUM	オブチマム・デザイン に関する文献	6402	同上	同上
SVDBANK	SHOCK AND VIBRATION DIGESTからの文献	20493	同上	同上
PLATE	板の理論に関する文献	13328	同上	同上
STABILITY	安定性に関する文献	7565	同上	同上
EEBANK	地震工学に関する文献	5580	同上	同上
VIBANK	機械振動に関する文献	18274	同上	同上
NVIBANK	機械振動に関する文献	20042	同上	同上
FEM BANK	有限要素法の文献	20252	同上	同上
AJEEBANK	地震工学の文献 出典(AJEE)	7178	同上	同上
CONF	CONFERENCE RECORD	35068	同上	同上

データベース名	データベースの内容	件数	資料	連絡先
SAIGAICH	中部地区の災害に関する文献（漢字）	3096	ニュース, Vol. 14, No. 2	工学部情報 検索学講座
SAIGAICE	災害の英文文献	1519	ニュース, Vol. 15, No. 3	同上
SECND	材料力学, 構造力学の 文献（1981以降）	53952	同上	同上
PDBBIB	蛋白質の文献 （ブルックヘブン）	2953	ニュース, Vol. 13, No. 2	医療技術 短期大学部
XDCBIB	結晶構造の文献 （ケンブリッジ大学）	56642	同上	同上
NSDB	核酸塩基配列のデータ	2897	ニュース, Vol. 15, No. 3	理学部生物
DPNU	物理学関係のプレブリ ント	24079	ニュース, Vol. 18, No. 3	理学部物理
QCLDB	量子化学に関する文献	11271	ニュース, Vol. 15, No. 4	分子科学研 究所

* 連絡先詳細

- ・名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部情報検索学講座 梶田健夫
- ・名古屋市東区大幸南1の1の20
名古屋大学医療技術短期大学部 佐々木教祐
- ・名古屋市千種区不老町 名古屋大学理学部生物学科 堀 寛
- ・名古屋市千種区不老町 名古屋大学理学部物理学科図書室プレプリントセンター
- ・岡崎市明大寺町字西郷中38
岡崎国立共同研究機構 分子科学研究所 山本茂義

京都大学 大型計算機センター

〒 606 京都市左京区吉田本町

電話 075- 751-2111

1. サービス・データベース

1.1 データベース一覧

データベース名	データベースの内容	データ件数	呼出コード	参考文献	区分
CHINA1	中国明代の科挙合格者に関する情報 (漢字)	7,546 件	IRS CHINA1	広報 14.3	IRS
CHINA2	中国唐代の詩人李商隱の美南文集 (漢字)	21,129 件	IRS CHINA2	広報 16.3	
CNMRP	高分子Carbon-13 核磁気共鳴データに関する情報 (実験データ、化合物、化学式等を含む)	2,003 件	IRS CNMRP	広報 16.5	
CONPHYS	物理学に関する国際会議録に収録された文献情報	186,873 件	IRS CONPHYS	広報 15.5	
CSM	細胞性粘菌に関する文献情報	2,959 件	IRS CSM	広報 13.4	
DESY	高エネルギー物理学関係のフライト等の情報 (反応式、実験結果も含む)	160,020 件	IRS DESY	広報 12.5	
ERIC	教育学、教育関連の文献情報 (RIE, CIJEから成る)	262,029 件	IRS ERIC	広報 13.6	
INSPECA	物理学関連の文献情報(1979 年以降)	1,039,066 件	IRS INSPECA	広報 18.3	
INSPECB	電子・電気工学関連の文献情報(1979 年以降)	547,849 件	IRS INSPECB	広報 18.3	
INSPECC	計算機・制御・情報工学関連の文献情報(1979 年以降)	417,931 件	IRS INSPECC	広報 18.3	
INSPECJ	INSPECデータ に収録された雑誌に関する情報	5,207 件	IRS INSPECJ	広報 18.3	
JAFDV	日本に収蔵されている脊椎動物化石の標本情報	198 件	IRS JAFDV	広報 19.4	
JMARC	国立国会図書館に収録された図書に関する文献情報。(日本語)	459,990 件	IRS JMARC	広報 15.3	
KOKYUROK	京大数理解析研究所の講義録を対象にした書誌情報	7,338 件	IRS KOKYUROK	広報 19.6	
KURRIP	京大原子炉実験所で実験された研究成果の文献情報 (日本語)	2,868 件	IRS KURRIP	広報 18.1	
MUROMATI	室町幕府が発給した文書のうちの奉行人奉書情報 (日本語)	4,014 件	IRS MUROMATI	広報 19.6	
OLDINSPA	物理学関連の文献情報(1969 年～1978年)	835,063 件	IRS OLDINSPA	広報 18.3	
OLDINSPB	電子・電気工学関連の文献情報(1969 年～1978年)	424,548 件	IRS OLDINSPB	広報 18.3	
OLDINSPC	計算機・制御・情報工学関連の文献情報(1969 年～1978年)	257,243 件	IRS OLDINSPC	広報 18.3	
PICMS	数理科学に関する国際会議録に収録された論文情報	3,098 件	IRS PICMS	広報 13.5	
POLEM	諸外国の政治・立法過程第一資料の書誌情報及び文献所在情報	4,534 件	IRS POLEM	広報 18.3	
RIFP	京大基礎物理学研究所が所有する素粒子・原子核関連のフライト情報	19,479 件	IRS RIFP	広報 17.6	
RIMS	数学関係の論文、レクチャーノート、フライト等に関する文献情報	46,148 件	IRS RIMS	広報 12.5	
SAIGAIKS	関西地区自然災害科学に関する文献情報 (日本語)	8,139 件	IRS SAIGAIKS	広報 16.1	
SAO	10等星以上の星に関する観測データ	258,997 件	IRS SAO	広報 12.5	
SHR	高血圧ラットに関する文献情報	468 件	IRS SHR		
XDCBIB	有機化合物結晶構造に関する文献情報 (化学式、化合物等を含む)	50,499 件	IRS XDCBIB	広報 12.6	
CAM	有機化合物、有機金属化合物に関する数値情報 ・CONN : 原子による部分構造検索 ・RTSB : 部分構造検索 ・DATA : 数値データ抽出	31,982 件 15,684 件 35,256 件	DLS CAM	広報 16.4	DLS
IDEAS	DNA 及びタンパク質の配列データ、文献情報、生物的情報等に関する情報	18,162 件	DLS IDEAS	広報 19.4	
ISLINE	宇宙に存在する原子・分子イオンの線スペクトルデータ	60,000 件	DLS ISLINE	広報 17.2	
KOUHOU	京大大型計算機センター広報の目次情報 (日本語)	939 件	DLS KOUHOU	広報 19.2	

WOODIS	都市周辺部の山地災害対策、環境保全に関する情報	82,000 件	DLS WOODIS	広報	20.3	DLS
QCLDB	量子化学に関する非経験的理論に基づいた研究論文の情報	6,276 件	DLS QCLDB	広報	19.5	
GEOMAG	地磁気観測に関する情報 ・STAT : 観測所情報 449 件 ・SDT : 観測データ 保有情報 9,901 件 ・AUAL79-83 : 観測情報 43,824 件 ・DSTKP : Dst、Kp指数及び関連データ 11,047 件		RDB GEOMAG	広報 広報 広報	16.6 19.2 19.4	RDB
JISHIN	地震観測に関する情報 ・FM : 発震機構情報 839 件 ・EP : 震源パラメータ情報 60 件 ・REF : 震源付加情報 51 件 ・REGION : 地域名情報 116 件 ・SHINGEN : 震源情報 47,268 件		RDB JISHIN	広報	16.6	
SHIFT	高分子Carbon-13 核磁気共鳴のソフトに関する数値データ	31,860 件	RDB SHIFT	広報	19.2	
TOSHO	京大大型計算機センター図書資料室所蔵図書に関する文献情報(日本語)	10,503 件	RDB TOSHO	広報	19.1	

注意) 問合せ先は総てプログラム相談室か、システム開発掛である。

1.2 データベースの利用条件

データベース名	データベースの提供機関	運用開始年	運用上の規制				利 用 条 件	
			運用形態	ファイル及びシステム出力	計算機可読形式の蓄積条件	データベースを用いた成果の公表条件	計算機可読形式の取出と印刷物作成の条件	
CHINA1	京大、人文科学研究所	1981年 5月	TSS パッチ	可	提供機関と大型計算機センターに事前に許可要	データベースを用いた成果の公表条件	提供機関と大型計算機センターに事前に許可要	
CHINA2	京大、人文科学研究所	1983年 5月						
CNWRP	幾徳工業大学情報工学科	1983年10月						
CONPHYS	京大、基礎物理学研究所	1982年 5月						
CSM	京大、理学部植物学教室	1980年 5月						
DESY	京大、基礎物理学研究所	1979年 4月						
ERIC	京大、大型計算機センター(教育学部)	1980年 9月	TSS	不可	禁 止	禁 止		
INSPBCA	京大、大型計算機センター	1979年 4月	TSS	システム出力不可 ファイル出力可				
INSPBCB	京大、大型計算機センター	1979年 4月						
INSPGCC	京大、大型計算機センター	1979年 4月						
INSPCEJ	京大、大型計算機センター	1981年 1月						
JAFDV	京大、理学部地質学鉱物学教室	1986年 5月					TSS パッチ	可
JMARC	京大、大型計算機センター	1982年 6月	TSS	可	提供機関と大型計算機センターに事前に許可要	提供機関と大型計算機センターに事前に許可要		
KOKYUROK	京大、数理解析研究所	1986年11月	TSS パッチ	可	提供機関と大型計算機センターに事前に許可要	提供機関と大型計算機センターに事前に許可要		
KURRIP	京大、原子炉実験所	1984年11月						
MUROMATI	京大、工学部建築学科	1986年10月						
OLDINSPA	京大、大型計算機センター	1987年 1月	TSS	システム出力不可 ファイル出力可				
OLDINSPB	京大、大型計算機センター	1987年 1月						
OLDINSPC	京大、大型計算機センター	1987年 1月						
PICMS	京大、数理解析研究所	1980年 9月	TSS パッチ	可	提供機関と大型計算機センターに事前に許可要	提供機関と大型計算機センターに事前に許可要		
POLEM	京大、法学部附属国際法政文献資料センター	1985年 4月	TSS パッチ	可	提供機関と大型計算機センターに事前に許可要	提供機関と大型計算機センターに事前に許可要		
RIFP	京大、基礎物理学研究所	1984年10月						
RIMS	京大、数理解析研究所	1979年 4月						

大阪大学 大型計算機センター

567 茨木市美穂ヶ丘5-1

電話 (06) 877-5111

1. サービスしているデータベース

データベース名	内 容	データ量	利用形態	利用説明書	問い合わせ先
PROTEIN-DB たんぱく質 データベース	たんぱく質の3次元 結晶構造データの検 索と図形表示	437件 55MB	TSS バッチ	大阪大学 大型計算機 センター・ニュース Vol.15, No.4 (1986)	大阪大学 蛋白質研究所 結晶解析センター (06) 877-9750 (06) 877-5111 内線 3912
GEODAS 地球学 データベース	地質および地震の データの検索と図形 表示	145000件 38MB	TSS バッチ	大阪大学 大型計算機 センター・ニュース Vol.11, No.3 (1981)	大阪市立大学 理学部 地学教室、弘原海 清 (06) 605-2533
CONSULTANT 計算機利用相談 データベース	Fortran のデバッグ 等のプログラム相談	1MB	TSS	大阪大学 大型計算機 センター・ニュース Vol.11, No.2 (1981)	名古屋市立大学 計算 センター、磯本 征雄 (052) 871-1334 内線 209
NQR 核四極共鳴 スペクトル データベース	核四極共鳴スペクト ルに関する書籍的情 報と数値データ	7734件 8.7MB	TSS バッチ	大阪大学 大型計算機 センター・ニュース Vol.11, No.4 (1982)	大阪大学 理学部 化学教室、千原 秀昭 (06) 844-1151 内線 4210
JSR 日本科学映像 データベース	日本国内にある学術 研究・教育のための 科学映画の二次情報	11100件 130MB	TSS	準 備 中	放送教育開発センター 研究開発部、菊川 健 (0472) 76-1111
SPEECH-DB 音声 データベース	音声認識の研究のた めの音声データ	46MB	TSS	大阪大学 大型計算機 センター・ニュース Vol.15, No.2 (1985)	大阪大学 産業科学研究所 溝口 理一郎 (06) 877-5111 内線 3566
YARUKI やる気 データベース	学生の学習について の「やる気」に関する データ	30件 17KB	TSS	大阪大学 大型計算機 センター・ニュース Vol.15, No.2 (1985)	大阪電気通信大学 工学部 経営工学科、石橋 正士 (0720) 24-1131 内線 364
BIOSIS 生物分野文献 データベース	生物、生物医学分野 の学術文献情報	40万件/年 600MB/年 1982-87年 リリース中 1980-81年 リリース予定	TSS	大阪大学 大型計算機 センター・ニュース Vol.15, No.3 (1985)	奈良工業高等専門学校 情報工学科、多喜 正城 (07435) 2-5213 大阪大学 大型計算機 センター 研究開発部 (06) 877-5111 内線 2834
CONPDATA 電気化学 データベース	電解質溶液の電導率 データ	24MB	TSS	近日、大阪大学 大型 計算機 センター・ ニュースに掲載予定	横浜国立大学 工学部 物質工学科、仁木 克巳 (045) 335-1451 内線 2719

九州大学大型計算機センター

〒812 福岡市東区箱崎6丁目10番1号

代表電話(092)641-1101

1. サービスしているデータベース

(1987年9月1日現在)

データ ベース名	データベースの内容	データ量	呼出コ マンド	利用 説明書	問合せ先
INSPECA	物理学関係英文二次文献	1969年以降 1,874,130件	AIR	広報20,3	九州大学 大型計算機センター データベース室 092-641-1101(内)2508
INSPECB	電気・電子工学関係英文 二次文献	1969年以降 972,396件	同上	同上	同上
INSPECC	計算機科学, 制御工学, 情 報工学関係英文二次文献	1969年以降 675,171件	同上	同上	同上
INSPECJ	INSPEC収録雑誌	1987年版 5,207件	同上	同上	同上
JICSTJ	情報工学関係和文二次文 献	1981年以降 108,907件	同上	同上	同上
CXDB	ケンブリッジ結晶データ ベース:有機及び有機金 属化合物の結晶構造デー タ	1935年以降 58,239件	XDT 又は TSUNO	広報16,1 広報16,6	九州大学教養部 上地哲雄 助教授 092-771-4161(内)453
日本語単 語辞書	自立語, 付属語, 接続テー ブル	単語数 92,000語	(サプルー チン呼び 出し)	広報16,4	九州大学工学部 日高 達 助教授 092-641-1101(内)5362
トーマス・ マン・ファ イル	フィッシャー版トーマ ス・マン全集 全13巻のテ キスト	11,410頁 約40万行	SIGMA	広報16,4 広報18,2	九州大学教養部 樋口忠治 教授 092-771-4161(内)323
GENEDB	ヌクレオチド配列データ と蛋白質アミノ酸配列 データ	塩基配列数 8,817 10,198 アミノ酸 配列数 4,028	GENAS 又は TSUNO	広報16,5 広報18,6	九州大学 遺伝情報実験施設 榎 佳之 教授 092-641-1151(内)3461
RAMBIOS	分子生物学関係英文二 次レビュー文献	1983年以降 2,049件	AIR	広報18,6	東京理科大学理学部 林 健児 教授 03-260-4271(内)212

学 術 情 報 セ ン タ ー

〒112 東京都文京区大塚3-29-1
電話(03)942-2351

1. サービスしているデータベース

データベース名	DB呼び出しコマンド	データ件数*	更新頻度	データベースの内容及び作成機関	利用条件
Life Sciences Collection	L I F E	20万件 1985以降	月次	医学、生化学、生理学、微生物学、農学、獣医学等の生命科学分野の研究文献を収録し、次の抄録誌に対応しています。 Animal Behavior Abstracts, Biochemistry Abstracts, Biotechnology Research Abstracts, Calcified Tissue Abstracts, Chemoreception Abstracts, Ecology Abstracts, Endocrinology Abstracts, Entomology Abstracts, Genetics Abstracts, Immunology Abstracts, Microbiology Abstracts, CSA Neurosciences Abstracts, Toxicology Abstracts, Virology Abstracts	データベースのいかなる部分も、印刷形態や機械可読形態での複製・再配布はできません。
MathSci	M A T H	8万件 1985以降	月次	American Mathematical Society が作成する数学分野の雑誌論文、記事等を収録するデータベースで、ほとんどの論文にはレビューが付いています。次の抄録誌に対応しています。 Mathematical Reviews	
COMPENDEX	E N G	55万件 1981以降	月次	米国 Engineering Information 社が作成する工学分野の雑誌記事、会議録、学位論文、政府刊行物、技術レポート等の抄録データベースです。次の抄録誌に対応しています。 Engineering Index, Bioengineering Abstracts	
Ei Engineering Meetings	E I M	20万件 1985以降	月次	米国 Engineering Information 社が作成している抄録データベースで、工学、技術関係の会議、シンポジウム、学会、討論会等の会議文献を収録しています。	
Harvard Business Review	H B R	250件 1985以降	2ヶ月	Harvard Business Review誌に収録される論文の全文のデータベースです。John Wiley & Sons社が作成し、マーケティング、経理、国際貿易、財政、経営等の経済・経営分野を対象としています。	データベースのいかなる部分もJohn Wiley & Sons社の書面による事前許可なしに、印刷形態や機械可読形態での複製はできません。
ISTIP&B	I S T P	20万件 1985以降	月次	米国のInstitute for Scientific Informationが作成する科学技術分野の会議文献に関する索引データベースです。次の索引誌に対応しています。 Index to Scientific and Technical Proceedings Index to Scientific Book Contents	データベースの検索結果をダウンロードすることはできますが、部分データベースを作成し印刷形態や機械可読形態で再配布することはできません。
JPHARC	J P M	15万件 1985以降	週次	日本国内で発行された圖書の著者、標題、出版者等の書誌情報を収録したデータベースです。国立国会図書館作成。	データベースのいかなる部分も、印刷形態や機械可読形態での複製・再配布はできません。
LCMARC(Books)	L C M B	40万件 1985以降	月次	主として英文の圖書の著者、標題、出版者等の書誌情報を収録するデータベースです。米国国会図書館作成。	
LCMARC (Serials)	L C M S	30万件 1985以降	3ヶ月	欧文雑誌の標題、出版者等の書誌情報データベースです。米国国会図書館作成。	
目録所在情報データベース (和雑誌)	J S C A T	雑誌 4万件 所蔵 100万件	-	我が国の大学図書館等に所蔵される和文の学術雑誌の書誌、所蔵状況を収録する総合目録データベースです。学術情報センター作成。次の資料に対応します。 学術雑誌総合目録和文編1985年版	
目録所在情報データベース (洋雑誌)	F S C A T 又は U L P	雑誌 9万件 所蔵 62万件	-	我が国の大学図書館等に所蔵される欧文の学術雑誌の書誌、所蔵状況を収録する総合目録データベースです。学術情報センター作成。次の資料に対応します。 学術雑誌総合目録自然科学欧文編1979年版、 同人文・社会科学欧文編1980年版、 同欧文編1982年補遺版	
科学研究費補助金研究成果概要データベース	K A K E N	2,800件 1985	年次	文部省の科学研究費補助金により行われた研究の研究成果報告概要のデータベースです。現収録データは、昭和60年度報告の内、特別進捗研究、特別研究、特定研究、一般研究A、試験研究を含みますが、順次収録年、分野を拡大する予定です。学術情報センター作成。	
学位論文索引データベース	G A K U I	5,000件 1985	-	我が国の大学で授与される博士学位論文の索引データベースです。現収録データは、北大、東北大、東大、慶應大、早稲田大、名大、京大、阪大、九大で昭和59、60年度に授与されたものを含みます。学術情報センター作成。	